

# 平成26・27年度 教育相談に関する研究

## 研究主題

心理教育的アプローチを生かした学級づくりと授業づくりの一体化  
～アドラー心理学を用いた共同体感覚の育成を通して～

## 〔別冊資料〕

〔小学校・中学校・高等学校〕

アドラー心理学を生かした対応実践事例集



茨城県教育研修センター

# 目次

## こんなときどうする？ 勇気づけの場面集

【ワーク編】	2
【提案編】	15

## 自尊感情を高めよう！勇気づけのワーク

1 ○○を救え	41
2 いいところ探し	45
3 いいところリレー	47
4 共同で絵を描こう！	49
5 色人（いろびと）探し	51
6 ぼくらの軌跡	53

## 「クラス会議」を始めよう！

【小学校低学年編】	56
【小学校中学年編】	58
【小学校高学年編】	62
【中学校編】	64
【高等学校編】	68

## 協同学習実践事例集

【小学校編】	73
【中学校編】	89
【高等学校編】	101

## 勇気づけのアンケートコメント集

勇気づけのアンケートから（小学校）	110
勇気づけのアンケートから（中学校）	112
勇気づけのアンケートから（高等学校）	114

アドラー心理学を生かした対応

# こんなときどうする？ 勇気づけの場面集

## 〈使用上の留意点〉

この資料は、「アドラー心理学を生かした対応とはどんな対応なのか、具体的に知りたいです。」という学校の先生方の声にお応えし、作成した資料です。この資料で紹介される対応でなければならないというわけではありません。実際には、対象となる児童生徒のパーソナリティや関係性、その場の状況等によって、対応の在り方は様々です。一つの対応の在り方として参考に見てみてください。何より大切なことは、児童生徒のことを大切に思う気持ちです。児童生徒の可能性を信じ、伸ばそうとする先生方の情熱です。その情熱に、「勇気づけ」の視点を加えるのに参考になれば幸いです。



# 【ワーク編】

## 〈ワーク 1〉

〔場面〕

A教諭は、クラスで受け持っている掃除分担場所を見回りに行った。分担場所を一回りし、教室に戻る際に先ほど見回ったトイレから騒がしい声がするのに気が付いた。トイレに行ってみると、先ほど見回ったときには熱心に掃除をしていた児童が遊んでいて、残念に思った。

〈問 1〉 これまでならどのように対応していたでしょう？

〈問 2〉 アドラー心理学を生かした対応とは、どのような対応でしょう？

※提案は P 15 参照

## 〈ワーク 2〉

〔場面〕

A教諭がクラスの掃除分担場所を見回り、教室に戻ってきた。すでに教室掃除は終わり、児童は 5 時間目の準備をしていた。A教諭は授業の準備を進めると、黒板掃除が不十分なことに気づき、不満に思った。

〈問 1〉 これまでならどのように対応していたでしょう？

〈問 2〉 アドラー心理学を生かした対応とは、どのような対応でしょう？

※提案は P 16 参照

### 〈ワーク 3〉

〔場面〕

小学校3年生のAさんは、算数が苦手で、自分一人で問題を解くことがなかなかできない。かけ算九九も学校と家で一生懸命に練習をして何とか覚えることができた。今日は算数の授業でかけ算の筆算を学習しているが、なかなかやり方を理解することができないようである。しばらく解こうとしていたが思うように計算できず、隣の児童にちょっかいを出し始めた。

〈問1〉 これまでならどのように対応していたでしょう？

〈問2〉 アドラー心理学を生かした対応とは、どのような対応でしょう？

※提案はP17参照

### 〈ワーク 4〉

〔場面〕

小学校3年生の活発なAさん、周りと合わせることが上手なBさん、少しおとなしいCさんが一緒に遠足のレクリエーション係になった。遠足当日、バスの中で歌を歌うなど楽しく過ごせていたが、なぞなぞ大会がしたいという提案がされ、児童が口々に「なぞなぞの問題出して。」「レク係さんお願い!」と言い始めた。3人のレク係のうちCさんがなぞなぞの本を用意しており、その本を使ってAさんとBさんがなぞなぞを出題した。

〈問1〉 これまでならどのように対応していたでしょう？

〈問2〉 アドラー心理学を生かした対応とは、どのような対応でしょう？

※提案はP18参照

## 〈ワーク 5〉

〔場面〕

小学校3年生のAさんは、一つのことに夢中になると、他のことが目に入らなくなってしまうことがある。今日も4時間目の国語の漢字練習が終わらず、給食の時間になったのに夢中で漢字を書き続けて、給食当番であることを忘れてしまった。他の給食当番の児童は、「また、Aさんか……。何でいつも遅いんだろうね。」などと言いながらAさんには声を掛けずに、Aさんの分まで運ぼうとしている。担任が「Aさん、給食当番だよ。」と声を掛けると、慌てて当番用の白衣を着始めた。

〈問1〉 これまでならどのように対応していたでしょう？

〈問2〉 アドラー心理学を生かした対応とは、どのような対応でしょう？

※提案はP19参照

## 〈ワーク 6〉

〔場面〕

小学校4年生のAさんは、何かに付け気を取られて行動が遅くなり、よく教師から注意を受ける児童である。今日も登校してから友達と楽しそうに話し、チャイムが鳴ってから慌ててランドセルを片付け始めた。そんなAさんに「いつも遅いんじゃないの。早くしなさい。」と行動を促すと、「今やってるじゃないですか！」と反論してきた。

〈問1〉 これまでならどのように対応していたでしょう？

〈問2〉 アドラー心理学を生かした対応とは、どのような対応でしょう？

※提案はP20参照

## 〈ワーク 7〉

〔場面〕

小学校 6 年生の A さんは、運動会の応援団長になった。自分なりに一生懸命に取り組んでいたが、応援団長としての責任は重く、先生に注意やアドバイスを受けることが多くなった。運動会が近くなった日、下級生がすぐに並ばなかったことから体育主任の先生に「応援団長はもっとしっかりしろ！」と大きな声で言われた。慌てて下級生を並ばせていると、担任から「早く並ばせて。」とさらに言われ、A さんは思わず、「今やっています！」と言ってしまった。

〈問 1〉 これまでならどのように対応していたでしょう？

〈問 2〉 アドラー心理学を生かした対応とは、どのような対応でしょう？

※提案は P 21 参照

## 〈ワーク 8〉

〔場面〕

小学校 6 年生の A さんは、忘れっぽい性格である。今日も昼休みに遊びに夢中になり、決められていた委員会の仕事を忘れてしまったが、ふと思い出し慌てて教室に戻ってきた。A さんの分まで仕事をしていた B さんは、つつい「なぜ時間どおりに仕事に来なかったの？」と強い口調で言ってしまった。A さんも「いつも真面目にやってるのだから、1 回ぐらい行かなくてもいいじゃないか。」と言い返してしまい、言い争いになった。

〈問 1〉 これまでならどのように対応していたでしょう？

〈問 2〉 アドラー心理学を生かした対応とは、どのような対応でしょう？

※提案は P 22 参照

## 〈ワーク9〉

〔場面〕

授業中は真面目にノートを取り、発表も意欲的にできる中学校1年生のAさんだが、提出物を出さないことが多い。今回も忘れずに提出するように個別に声を掛けたが出さなかった。

〈問1〉これまでならどのように対応していたでしょう？

〈問2〉アドラー心理学を生かした対応とは、どのような対応でしょう？

※提案はP23参照

## 〈ワーク10〉

〔場面〕

中学校1年生のAさんは、担任が見ている教室掃除はよくやるが、担任の目が行き届かない別の場所になると掃除をさぼる生徒である。今日は他の生徒が熱心にトイレ掃除をしている中、さぼっているところを副担任が見かけた。

〈問1〉これまでならどのように対応していたでしょう？

〈問2〉アドラー心理学を生かした対応とは、どのような対応でしょう？

※提案はP24参照



## 〈ワーク11〉

〔場面〕

中学校1年生のAさんは、給食当番の準備はきちんとできるが、休み時間に早く遊びに行きたいために、片付けはやらないことが多い。今日も給食当番なのに他の生徒にやらせて遊びに行こうとしている。

〈問1〉 これまでならどのように対応していたでしょう？

〈問2〉 アドラー心理学を生かした対応とは、どのような対応でしょう？

※提案はP25参照

## 〈ワーク12〉

〔場面〕

バスケットボール部の県大会の最中、応援をしないで塾の宿題をやっている1年生がいた。顧問が注意をすると「3年生から応援の合間に休憩を取ってよいと言われたからやっていた。」とやや不服そうに話した。もうすぐ試合が始まることを伝えたところ、勉強道具を片付けて応援に行った。

〈問1〉 これまでならどのように対応していたでしょう？

〈問2〉 アドラー心理学を生かした対応とは、どのような対応でしょう？

※提案はP26参照

## 〈ワーク13〉

〔場面〕

中学校2年生のAさんは宿題を出さないことが多い。何度指導しても改善されない。今日も忘れてきたというので、放課後に残って宿題をやるように指示を出した。放課後に教室に行くと、Aさんがふてくされていた。

〈問1〉これまでならどのように対応していたでしょう？

〈問2〉アドラー心理学を生かした対応とは、どのような対応でしょう？

※提案はP27参照

## 〈ワーク14〉

〔場面〕

陸上部の中学校2年生のAさんはけがをしていて、他の生徒と一緒に陸上の練習をすることができない。そこで、1年生と一緒に軽めの練習をすることになった。初めの頃は練習の仕方を教えたり、1年生を笑顔で励ましたりして、和やかな雰囲気を作ろうと努力する姿が見られた。しかし、だんだんと練習に関係のない話をするが増え、集中して練習に取り組まない姿が見られるようになってきた。

〈問1〉これまでならどのように対応していたでしょう？

〈問2〉アドラー心理学を生かした対応とは、どのような対応でしょう？

※提案はP28参照

## 〈ワーク15〉

〔場面〕

中学校2年生のAさんは、授業で使うコンパスを忘れた。先生が忘れ物を確認した際には報告せず、コンパスを使った活動が始まったら定規を使って円を描こうとしていた。その様子を教師が見付けて、「何をやっているの？コンパスはどうしたの？」と声を掛けると、ようやく忘れたことを報告した。

〈問1〉 これまでならどのように対応していたでしょう？

〈問2〉 アドラー心理学を生かした対応とは、どのような対応でしょう？

※提案はP29参照

## 〈ワーク16〉

〔場面〕

中学校3年生のAさんは受験に向けて毎日遅くまで勉強している。そのため、昼間の授業では居眠りをしてしまうこともしばしば見られる。その都度注意をしていたが、改善が見られない。今日も午後の授業になると居眠りを始めた。

〈問1〉 これまでならどのように対応していたでしょう？

〈問2〉 アドラー心理学を生かした対応とは、どのような対応でしょう？

※提案はP30参照

## 〈ワーク17〉

〔場面〕

中学校3年のAさんは、最後の体育祭でクラスのいい思い出を作ろうと思い、団体種目のリーダーに立候補し、みんなをまとめて引っ張ってきた。しかし、当日は失敗してしまい1位になれなかった。そのことが原因でクラスの生徒に八つ当たりするようになった。

〈問1〉 これまでならどのように対応していたでしょう？

〈問2〉 アドラー心理学を生かした対応とは、どのような対応でしょう？

※提案はP31参照

## 〈ワーク18〉

〔場面〕

中学校3年生のAさんは、毎回のように教科書やノートを忘れてきてしまう。今日も隣の生徒に教科書を見せてもらい、違う教科のノートを出して板書を写し始めた。

〈問1〉 これまでならどのように対応していたでしょう？

〈問2〉 アドラー心理学を生かした対応とは、どのような対応でしょう？

※提案はP32参照

## 〈ワーク19〉

〔場面〕

高校1年生のAさんは、明るく、他の生徒と関わるのが大好きで、協力して活動できる生徒である。しかし、落ち着いて話を聞くことは苦手で、今日もSHRで担任が話しているときに、隣の席の生徒に話しかけてしまった。注意をされると静かにしたが、しばらくするとまた話し始めてしまった。

〈問1〉 これまでならどのように対応していたでしょう？

〈問2〉 アドラー心理学を生かした対応とは、どのような対応でしょう？

※提案はP33参照

## 〈ワーク20〉

〔場面〕

高校1年生のAさんは、グループ学習になると、ずっと自分の意見だけをしゃべり続け、他の生徒が意見を言う機会を奪い、一人で勝手に話を進めてしまう。今日のグループ学習でも自分勝手に進めていた。

〈問1〉 これまでならどのように対応していたでしょう？

〈問2〉 アドラー心理学を生かした対応とは、どのような対応でしょう？

※提案はP34参照

## 〈ワーク21〉

〔場面〕

高校1年生のAさんは、数学が苦手で学力も低く、授業中寝てしまうことが多い。授業を妨害することはないが、板書を写したり、提出物を出したりすることはできる。今日の数学の授業では、最初は教師の話聞いていたが、そのうちに机に伏せてしまった。

〈問1〉 これまでならどのように対応していたでしょう？

〈問2〉 アドラー心理学を生かした対応とは、どのような対応でしょう？

※提案はP35参照

## 〈ワーク22〉

〔場面〕

高校2年生のAさんは人見知り強く、人と交わることを嫌う。馴れていない人が教室に入ることも嫌がる。学校公開や授業参観のときはトイレに閉じこもり出てこないことがある。教育の日の学校公開授業では、下を向いたまま動かなくなった。

〈問1〉 これまでならどのように対応していたでしょう？

〈問2〉 アドラー心理学を生かした対応とは、どのような対応でしょう？

※提案はP36参照

## 〈ワーク23〉

〔場面〕

老人ホーム慰問に持参する折り鶴をグループで作るとき、高校2年生のAさんは、「オレはやらないよ。折り紙なんか高校生のやる物ではないよ。」と言ってやらない。

〈問1〉 これまでならどのように対応していたでしょう？

〈問2〉 アドラー心理学を生かした対応とは、どのような対応でしょう？

※提案はP37参照

## 〈ワーク24〉

〔場面〕

高校2年生のAさんは、学力は高くないが学習に対してコツコツと努力できる生徒である。授業で行う小テストも一生懸命がんばってきた。しかし、今日の小テストを配ろうとしたとき、「がんばってもできない。」とつぶやいた。

〈問1〉 これまでならどのように対応していたでしょう？

〈問2〉 アドラー心理学を生かした対応とは、どのような対応でしょう？

※提案はP38参照

## 〈ワーク25〉

〔場面〕

文化祭のクラス代表に選ばれた高校2年生のAさんは、成功させるために率先して準備をしていたが、周囲は次第にAさんに任せっきりにし始めた。準備が思うように進まないイライラがつのり、非協力的なBさんに対して「何で、協力しないんだよ！」と詰め寄った。

〈問1〉 これまでならどのように対応していたでしょう？

〈問2〉 アドラー心理学を生かした対応とは、どのような対応でしょう？

※提案はP 39参照





# 【提案編】

## 【ワーク 1 への提案】

〔場面〕

A 教諭は、クラスで受け持っている掃除分担場所を見回りに行った。分担場所を一回りし、教室に戻る際に先ほど見回ったトイレから騒がしい声がするのに気が付いた。トイレに行ってみると、先ほど見回ったときには熱心に掃除をしていた児童が遊んでいて、残念に思った。

〈ポイント〉

今遊んでいる事実だけにだけ目を向けると、つい大きな声で指導してしまうことも考えられる。1 度目の見回りのときに一生懸命に掃除をしていた事実にも着目し、勇気づける。

〈アドラー心理学を生かした対応例〉

- ・「さっき来たときは一生懸命に掃除できていたね。今はどうしたのかな？」
- ※もし、児童が「掃除、終わりました。」と答えたら・・・
- 「そうなんだね。一生懸命にやったからもう終わったんだね。〇〇の部分をやってくれれば、もっときれいになって気持ちよく使えるね。」

〈解説〉

最初に見回ったときにきちんと掃除をしても、2 度目に行ったときに遊んでいたのでは、担任としては残念に思うだろう。ときには怒りにも似た感情をもつかもしい。しかし、その感情をストレートに表現するよりも、努力を認めることが大切である。もしかしたら児童の感覚では、十分に掃除を行い、手持ちぶさたで遊んでしまったかもしれない。そうだとしたら怒りを伝えるより、具体的に掃除する箇所や方法を伝えた方がよいと思われる。

## 【ワーク2への提案】

〔場面〕

A教諭がクラスの掃除分担場所を見回り、教室に戻ってきた。すでに教室掃除は終わり、児童は5時間目の準備をしていた。A教諭は授業の準備を進めると、黒板掃除が不十分なことに気づき、不満に思った。

〈ポイント〉

黒板がきれいになっていないと、教師としては不満だろう。しかし、大きな声で指導をして、黒板掃除をやり直させても、児童としては「怒られたくないから掃除をする」といった感覚になるのではないだろうか。大きな声を出さずに、教師と児童がお互いに気持ちよく生活できるように関わりたい。最大の勇気づけのチャンスは、きれいになっているときである。

〈アドラー心理学を生かした対応例〉

※児童を指導して黒板掃除をやらせるのではなく、教師自らが黒板を掃除する。

※もし、手伝ってくれる児童がいたら・・・

→「ありがとう、助かるよ。おかげで気持ちよく授業ができるね。」

※きれいに黒板が掃除できていた日に・・・

→「今日、黒板掃除をやってくれた人はすごいね。とてもきれいになっていて、気持ちいいなあ。」

〈解説〉

「さあ、授業をやろう!」と思ったときに、黒板が汚れていたのでは、教師は気持ちよく授業に臨めないだろう。「今日の黒板掃除をやったのは誰だ?やり直し!」などと言いきりである。しかし、それでは教師も児童も気持ちよく授業に臨めない。教師として率先垂範を示すことも必要と考える。だまって黒板をきれいにし、手伝ってくれる児童がいれば、しっかりと勇気づける。また、黒板がきれいになっているときに最大の勇気づけのチャンスで、教師も児童も気持ちよく授業に臨めると考える。勇気づけられた児童は、しばらくは黒板そうじを一生懸命にやるだろうが、だんだんと勇気づけられた意識は薄れていくものである。大切なのは、勇気づけをシャワーのように浴びせるのを繰り返すことである。

## 【ワーク 3 への提案】

### 〔場面〕

小学校 3 年生の A さんは、算数が苦手で、自分一人で問題を解くことがなかなかできない。かけ算九九も学校と家で一生懸命に練習をして何とか覚えることができた。今日は算数の授業でかけ算の筆算を学習しているが、なかなかやり方を理解することができないようである。しばらく解こうとしていたが思うように計算できず、隣の児童にちょっかいを出し始めた。

### 〈ポイント〉

今、隣の児童にちょっかいを出しているという不適切な行動だけに焦点を当てると、どうしても厳しく指導してしまいがちである。A さんの努力と成長を勇気づける。やる気を高めてからでないと、いくらよい教材で個別指導をしようとしても効果は薄くなるのではないだろうか。まずはやる気を高め（損なわせない）、その上で A さんに合った段階的な個別指導を行う。

### 〈アドラーを生かした対応例〉

「A さん、がんばって解いていたね。この前のかけ算九九もがんばったからよくできるようになったね。かけ算の筆算は、ちょっと難しそうだけど、A さんができるようになったかけ算九九を使えば、筆算もできるようになるから先生と一緒にがんばろうね。」

### 〈解説〉

隣の児童にちょっかいを出すという不適切な行動にだけ注目すると、「何でちょっかい出しているの。やめなさい。」などと言わざるを得ない。不適切な行動ではなく、適切な行動に焦点を当て勇気づけたい。A さんの適切な行動とは、問題に取り組んだことである。本人なりに努力したがうまくいかなかったために、隣の児童にちょっかいを出し始めたと考えられる。まずは問題に取り組んだことを勇気づけ、過去の努力も合わせて勇気づけ、成功体験を思い出させたい。その上で、個別指導の時間を確保して、筆算のやり方を一つ一つ確認し、正答を導き出し、称賛することを繰り返すことで、やる気を引き出したい。できないよりも本人の努力やちょっとした成長を勇気づけていくことに焦点を当てることが大切である。

## 【ワーク4への提案】

### 〔場面〕

小学校3年生の活発なAさん、周りと合わせることが上手なBさん、少しおとなしいCさんが一緒に遠足のレクリエーション係になった。遠足当日、バスの中で歌を歌うなど楽しく過ごせていたが、なぞなぞ大会がしたいという提案がされ、児童が口々に「なぞなぞの問題出して。」「レク係さんお願い!」と言い始めた。3人のレク係のうちCさんがなぞなぞの本を用意しており、その本を使ってAさんとBさんがなぞなぞを出題した。

### 〈ポイント〉

一見目立つAさんとBさんを勇気づけがちだが、Cさんが本をもっていたからこそ、なぞなぞを出題することができた。陰に隠れて目立たないが、レクリエーション係として用意がよかったCさんの貢献も勇気づけたい。

### 〈アドラーを生かした対応例〉

「AさんとBさんが上手になぞなぞ大会をしてくれたおかげで、楽しく過ごすことができましたね。ありがとうございます。Cさんがなぞなぞの本を用意してくれていたからなぞなぞ大会ができましたね。Cさんの準備がよかったからみんなが楽しく過ごせたんですね。とても助かったよ。」

### 〈解説〉

教師は、目立つ行動は目にとまりやすいので、褒めることはたやすく、ついつい目立つ児童を褒める傾向がある。しかし、こうした児童には褒められる機会がたくさんある。本当に勇気づけを必要としている児童は別にいる。Cさんのように目立たない、おとなしい児童は自尊感情が低いと予想されるので、意図的に勇気づけをしたい。この場面でも、先頭に立ってがんばっているAさんやBさんとともに、陰に隠れながらも集団に貢献しているCさんを見逃さないようにしたい。

## 【ワーク5への提案】

〔場面〕

小学校3年生のAさんは、一つのことに夢中になると、他のことが目に入らなくなってしまうことがある。今日も4時間目の国語の漢字練習が終わらず、給食の時間になったのに夢中で漢字を書き続けて、給食当番であることを忘れてしまった。他の給食当番の児童は、「また、Aさんか……。何でいつも遅いんだろうね。」などと言いながらAさんには声を掛けずに、Aさんの分まで運ぼうとしている。担任が「Aさん、給食当番だよ。」と声を掛けると、慌てて当番用の白衣を着始めた。

〈ポイント〉

いつもダメ出しされている児童の自尊感情は育たない。まずはAさんの一つのことに集中して取り組めるよさを勇気づけたい。また、その他の給食当番の児童も、集団への貢献を勇気づけたい。

〈アドラー心理学を生かした対応例〉

「Aさん、今日も漢字練習、集中してがんばってるね。すごいねえ。」

※Aさんが気付いて白衣に着替え始めたら……

「着替えるの、早いねえ。集中力がすごいね。」

※忘れずに取り組んでいるときに……

「忘れずに取り組んでくれてありがとう。」

※周りの児童に対しては……

「Aさんの分まで持ってきてくれてありがとう。みんなで協力してやると準備も早くなるね。」

〈解説〉

担任としては、何度注意しても改善しないと、「ほら、何度言ったら分かるの！」などとダメ出しをしがちである。リフレーミングの技法を使い、Aさんの捉え方を変えるとよい。例えば、・行動が遅い→慎重に行動する ・他のことが目に入らない→集中力がある などである。担任が児童を肯定的に捉え、関わることで、周囲の児童も同じように肯定的に捉えることが期待できる。逆に否定的に捉え、否定的な言葉ばかりを掛けていると、周囲の児童も否定的に捉えるようになる。担任が意図的によさを伝えることで、児童同士をつなぎたい。

## 【ワーク6への提案】

### 〔場面〕

小学校4年生のAさんは、何かに付け気を取られて行動が遅くなり、よく教師から注意を受ける児童である。今日も登校してから友達と楽しそうに話し、チャイムが鳴ってから慌ててランドセルを片付け始めた。そんなAさんに「いつも遅いんじゃないの。早くしなさい。」と行動を促すと、「今やってるじゃないですか！」と反論してきた。

### 〈ポイント〉

いつも指導していることがいっこうに改まらなると、教師としてはついイライラしてしまう。さらに反発されると怒りの感情がわき起こるだろうが、児童と権力争いはしないことが大切である。本来であれば、まずは不適切な行動に注目するのではなく、適切な行動を勇気づけたい。

### 〈アドラー心理学を生かした対応例〉

※この場面では・・・

「そうだよね。チャイムに気付いて急いでやってるね。」などと、本人なりの努力を認める言葉を掛ける。

※きちんと時間内にランドセルを片付けたとき・・・

「時間内に片付けができたね。」「時間内にできて余裕があるといい表情だね。」などと、努力や成長を勇気づける。

### 〈解説〉

遅くはなったがチャイムが鳴ってから慌ててランドセルを片付けた行動は、本人なりの努力であろう。この努力が受け入れられず、頭ごなしに遅いことをダメ出しされると、児童も反発したくなることもある。特に、いつもダメ出しをされている児童は、「いつも、ぼく（わたし）ばかり！」という気持ちをもっているのだから、なおさらである。ないもの探しでダメ出しするよりも、あるところ探しでヨイ出ししながら、児童の行動の変容を待つ姿勢も大切と考える。

## 【ワーク7への提案】

### 〔場面〕

小学校6年生のAさんは、運動会の応援団長になった。自分なりに一生懸命に取り組んでいたが、応援団長としての責任は重く、先生に注意やアドバイスを受けることが多くなった。運動会が近くなった日、下級生がすぐに並ばなかったことから体育主任の先生に「応援団長はもっとしっかりしろ！」と大きな声で言われた。慌てて下級生を並ばせていると、担任から「早く並ばせて。」とさらに言われ、Aさんは思わず、「今やっています！」と言ってしまった。

### 〈ポイント〉

児童が素直に言うことを聞かないと、つい強い口調になりがちである。大切なことは、児童と権力争いをしないことで、ダメ出しではなく、ヨイ出しで勇気づける。

### 〈アドラー心理学を生かした対応例〉

「そうだね。先生も手伝うから、がんばろうね。・・・集団をまとめるのは大変だよ。いつもがんばっている姿を見ていたよ。」

※Aさんの感情が高ぶる前の対応

「Aさんは、毎日団長の仕事をがんばってるね。集団をまとめることは大変でしょう。先生はAさんががんばっていることを知ってるよ。」

### 〈解説〉

児童に反発されると、教師としては心中穏やかではられない。特に、周りに児童がいる場では、立腹してしまうこともある。これは、「子供のくせに生意気だ!」、「教師としての威厳が保たれない。」といった気持ちのためと思われる。教師として大切なことは、児童を教育することである。決して怒りの感情をぶつけることではない。Aさんが反発してしまった場合は、一歩引いてAさんをサポートするか、穏やかに今がんばっていることを勇気づけたい。また、本来ならば、応援団長としてがんばっているときに勇気づけることが望ましい。ふだんからこうした関わり方をしていれば、余計な反発はなくなると思われる。

## 【ワーク 8 への提案】

〔場面〕

小学校 6 年生の A さんは、忘れっぽい性格である。今日も昼休みに遊びに夢中になり、決められていた委員会の仕事を忘れてしまったが、ふと思い出し慌てて教室に戻ってきた。A さんの分まで仕事をしていた B さんは、ついつい「なぜ時間どおりに仕事に来なかったの？」と強い口調で言ってしまった。A さんも「いつも真面目にやってるのだから、1 回ぐらい行かなくてもいいじゃないか。」と言い返してしまい、言い争いになった。

〈ポイント〉

A さんが委員会の仕事を忘れてしまったことに注目せず、急いで戻ってきた A さんの努力を勇気づける。同様に一人でも委員会の仕事をしっかりと行った B さんの努力や貢献を勇気づける。

〈アドラー心理学を生かした対応例〉

「A さんは、委員会の仕事を忘れたことに気が付いて、急いで戻って来たんだね。ありがとうね。B さんは、A さんの分も、しっかりと仕事をしてくれて、ありがとう。」

〈解説〉

とかく教師は児童の不適切な行動に目が行きがちである。A さんが委員会の仕事を忘れてしまったことを発端に言い争いになったとしたら、「あなたが原因で問題が起こったんでしょ。」「B さんも言い過ぎじゃない。」などと言いがちである。不適切な行動に注目するのではなく、適切な行動に注目して勇気づけたい。A さんの適切な行動は、遅れても急いで戻ってきたこと、B さんの適切な行動は A さんの分まで仕事をしたことである。



## 【ワーク9への提案】

### 〔場面〕

授業中は真面目にノートを取り、発表も意欲的にできる中学校1年生のAさんだが、提出物を出さないことが多い。今回も忘れずに提出するように個別に声を掛けたが出さなかった。

### 〈ポイント〉

不適切な行動や教師にとって迷惑な行動を指導しがちだが、今できていることやがんばっていることを積極的に勇気づけるようにする。他の生徒の適切な行動を認めることで、Aさんへの啓発を図る。Aさんが提出物をきちんと提出したときが、勇気づけの最大のチャンスである。

### 〈アドラー心理学を生かした対応例〉

※ふだんの授業での勇気づけの例

- ・「Aさんはノートをきちんと書いていて素晴らしいね。」
- ・「いつも発表をたくさんしてくれてありがとうね。」

※提出物を期限を守って出したときの例

- ・「提出物を期限を守って出してくれてうれしいな。」

### 〈解説〉

授業で真面目にノートをとっていることや、発表を意欲的に行っていることを勇気づける。また、意図的に提出物をきちんと提出している生徒を勇気づけることで、提出物に関する意識の高揚を図る。適切な行動をすることで注目を浴び、所属欲求、承認欲求が満たされることを、直接的・間接的に体験することで、行動の変容を待つ。提出物をきちんと出したときに勇気づけることが大切である。

## 【ワーク10への提案】

### 〔場面〕

中学校1年生のAさんは、担任が見ている教室掃除はよくやるが、担任の目が行き届かない別の場所になると掃除をさぼる生徒である。今日は他の生徒が熱心にトイレ掃除をしている中、さぼっているところを副担任が見かけた。

### 〈ポイント〉

掃除していないことを頭ごなしに指導するよりも、教室掃除を熱心に行っていることを伝えたり、他の生徒が熱心に掃除していることを勇気づけたりする。

### 〈アドラー心理学を生かした対応例〉

対応例①（適切な行動を勇気づける）

「教室掃除を熱心にやっていることを担任の先生から聞いてるよ。」

対応例②（他の生徒の適切な行動を勇気づける）

「誰もが嫌がるトイレ掃除でも熱心にやってくれてありがとうね。」

### 〈解説〉

一般的には掃除をしていない生徒を見かければ注意する。注意をされて態度が改まるのであれば、問題はないはずである。しかし、何度注意されても改善できない生徒がいる。こうした生徒は、内発的動機付けを高めることが大切である。そのためには、例①のような勇気づけがよいのではないだろうか。また、他の生徒が熱心にやっていることを例②のように勇気づけることで、適切な行動で注目されることを意識付け、本人がトイレ掃除をやっているときに、適切に勇気づけることが必要である。

生徒が自分を認めてくれる教師とそうでない教師で態度を変えることはよくあることである。自分の承認欲求を満たしてくれる教師の前ではがんばるのである。副担任が注意ばかりしていると反発心をもつようになると考えられる。全ての教師が共通理解を図り、同じように勇気づけをすることで、生徒の行動が変わると考える。適切な行動を勇気づけることが重要である。

## 【ワーク11への提案】

### 〔場面〕

中学校1年生のAさんは、給食当番で準備はきちんとできるが、休み時間に早く遊びに行きたいために、片付けはやらないことが多い。今日も給食当番なのに他の生徒にやらせて遊びに行こうとしている。

### 〈ポイント〉

不適切な行動に注目するより、適切な行動を勇気づける。Aさんが片付けをやったときこそ、勇気づけの最大のチャンスと考える。また、Aさんの分まで片付ける他の生徒への勇気づけも必要である。

### 〈アドラー心理学を生かした対応例〉

#### 対応例①

- ・「給食当番の仕事をしっかりやってくれてありがとう。」

#### 対応例②

- ・「後片付けまでしっかりやってくれてありがとう。」

#### 対応例③

- ・「Aさんの分までやってくれて助かるよ。みんなのおかげだね。」

### 〈解説〉

不適切な行動を指導して改善を図るという視点から、適切な行動を勇気づけて強化するという視点をもつとよい。教師として、「給食当番の片付けもきちんとさせる」という目的達成のために、強制的に片付けをさせるのか、本人の主体的行動で片付けるのか、どちらが本人の成長によいのか考えてみるとよい。給食当番の仕事をきちんと行ったときには、例①のように勇気づける。片付けまできちんと行ったときが勇気づけの最大のチャンスで、例②のように伝えるとよい。しかし、他の当番からも適切な行動を認めてほしいとの不満が出てくることも考えられるので、他の当番への勇気づけは不可欠であり、例③のように常に勇気づけるとよい。大切なことは、教師が生徒の適切な行動をしっかりと認めているということを常に伝えることである。

## 【ワーク12への提案】

### 〔場面〕

バスケットボール部の県大会の最中、応援をしないで塾の宿題をやっている1年生がいた。顧問が注意をすると「3年生から応援の合間に休憩を取ってよいと言われたからやっていた。」とやや不服そうに話した。もうすぐ試合が始まることを伝えたところ、勉強道具を片付けて応援に行った。

### 〈ポイント〉

本人は自分の行動が悪いとは思っていない。頭ごなしに叱っても、反発心をもつだけである。大会の最中に塾の宿題をしていることは受け入れがたいかもしれないが、すぐに片付けて応援に行った行為を勇気づける。

### 〈アドラー心理学を生かした対応例〉

※応援後の言葉掛けとして

「すぐに片付けて、3年生の応援に行けたんだね。一生懸命応援していたのが分かったよ。部活動はチームワークが大切だから、みんなで応援に貢献してくれたことがよかったよ。」

### 〈解説〉

他者から言われたことをそのまま受け止め、周囲への配慮ができない子供が増えてきていると言われている。この生徒もこのような子供と思われる。本人としては、何も悪いことはしていないと思っているので、頭ごなしに叱られても納得できないであろう。塾の宿題をやっていることにも本人なりの言い分がある。まずはしっかりと言い分を傾聴する必要がある。また、素直に応援に行ったということは、バスケットボール部に貢献しようとする気持ちはあるので、こうした行動は勇気づけることが必要である。バスケットボール部への貢献を勇気づけつつ、チームワークの大切さ等にも気付かせるように諭すことができる。

## 【ワーク13への提案】

### 〔場面〕

中学校2年生のAさんは宿題を出さないことが多い。何度指導しても改善されない。今日も忘れてきたというので、放課後に残って宿題をやるように指示を出した。放課後に教室に行くと、Aさんがふてくされていた。

### 〈ポイント〉

ふてくされた態度には注目せず、来ていることを勇気づける。

### 〈アドラー心理学を生かした対応例〉

「約束したとおり、放課後残ってくれてありがとう。先生は、うれしいよ。分からないところはないかな。一緒にがんばってみよう。」

### 〈解説〉

宿題を出さない生徒の行動が問題であり、さらにふてくされた態度をしていれば、教師としては「いつも忘れる方が悪いんだろ。」などと言いたくなってしまう。しかし、生徒と権力争いをしても改善は見込めない。ふてくされながらも放課後に残った本人なりの努力を勇気づけたい。さらに、宿題を忘れず提出したときが最大の勇気づけのチャンスとなる。また、宿題を忘れがちな理由について、丁寧に傾聴していくことが必要である。教師が把握していない理由があるかもしれない。十分に共感的に傾聴することが信頼関係づくりの第一歩である。

## 【ワーク14への提案】

### 〔場面〕

陸上部の中学校2年生のAさんはけがをしていて、他の生徒と一緒に陸上の練習をすることができない。そこで、1年生と一緒に軽めの練習をすることになった。初めの頃は練習の仕方を教えたり、1年生を笑顔で励ましたりして、和やかな雰囲気を作ろうと努力する姿が見られた。しかし、だんだんと練習に関係のない話をするが増え、集中して練習に取り組まない姿が見られるようになってきた。

### 〈ポイント〉

無駄話をしていることより、けがをしていても練習に来ているAさんの努力や貢献を勇気づける。

### 〈アドラー心理学を生かした対応例〉

「1年生と一緒に和やかな雰囲気での練習ができるようにいろいろと考えてくれてるね。おかげで1年生も練習を覚えることができたし、がんばろうとする姿も見られるようになってきているよ。ありがとう。」

### 〈解説〉

Aさんの行動（集団への貢献や努力）を適切な段階で勇気づけていれば、不適切な行動は軽減できたと考えられる。この段階で練習の雰囲気を壊すような行動を注意すると、かえって不適切な行動を強化してしまう可能性がある。集団への貢献や本人なりの努力を勇気づけると、自尊心が高まり、さらにやる気を引き出すことができると考えられる。また、生徒は教師からの声掛けだけでなく、生徒同士の関わりの中でも勇気づけられる。1年生からの感謝の言葉に勇気づけられ、励みになることもあるので、周辺の生徒に働きかけることも効果がある。

## 【ワーク15への提案】

### 〔場面〕

中学校2年生のAさんは、授業で使うコンパスを忘れた。先生が忘れ物を確認した際には報告せず、コンパスを使った活動が始まったら定規を使って円を描こうとしていた。その様子を教師が見付けて、「何をやっているの？コンパスはどうしたの？」と声を掛けると、ようやく忘れたことを報告した。

### 〈ポイント〉

忘れ物を確認した際に報告しなかったことに注目すると指導したくなる。机間指導の際ではあるが自分の失敗を正直に話せたことを認める方が、生徒の自尊感情を伸ばすことができると考える。

### 〈アドラー心理学を生かした対応例〉

「忘れたということをきちんと説明できたね。そうか、それで定規で何とか円を描こうとしたんだね。」

### 〈解説〉

忘れ物を確認した際には報告せず、隠れて定規で円を描こうとすることは、教師としては受け入れられないことかもしれない。また、こうしたことが度々あると教師としても穏やかでいられず、ついつい「さっき確認したときに、なぜ言わなかったの？」、「定規で円が描けるわけないでしょ！」などと、ダメ出しをすることがある。こうした生徒には自尊感情が低く、なかなか言い出せない生徒がいる。頭ごなしにダメ出しされるより、今できていることに注目し、ヨイ出しをした方が生徒の自尊感情は高まる。また、次の授業でコンパスを持って来たときや、忘れ物を報告できたときに、勇気づけるとよい。時間はかかるかもしれないが、ちょっとした成長や努力を勇気づけることを繰り返し、自尊感情を高めたい。

## 【ワーク16への提案】

### 〔場面〕

中学校3年生のAさんは受験に向けて毎日遅くまで勉強している。そのため、昼間の授業では居眠りをしてしまうこともしばしば見られる。その都度注意をしていたが、改善が見られない。今日も午後の授業になると居眠りを始めた。

### 〈ポイント〉

居眠りという不適切な行動に注目するよりも、生徒の努力に目を向け、勇気づけをする。教師としては、居眠りを止めさせることより、受験勉強をがんばっている生徒を認め、励ます視点を優先した方がよい。

### 〈アドラー心理学を生かした対応例〉

#### 対応例①

- ・「生活ノートを見ると、毎日遅くまで勉強しているんだね。がんばっているんだね。」

#### 対応例②

- ・「がんばってるね。授業で生き生きしている姿を見られて、先生もうれしいよ。一緒に受験に向けてがんばろうね。」

### 〈解説〉

受験勉強をがんばっていることを理解していても、授業中に居眠りをしていると、教師としては気になる場所である。このようなとき、教師としては、生徒を思う気持ちが強いはずだが、指導をしても居眠りが改善されないとなると、「しっかりしなさい。」「たるんでいるんじゃないのか。」などと、違った感情が芽生えることもある。強い指導で何とか改善しようとしても、生徒の自信感情は傷つくばかりではないだろうか。生徒の努力を受け止めず、目の前で起こっていることだけに焦点を当てるのではなく、生徒の努力やちょっとした成長を見付け、適切に勇気づける方が効果的である。ふだんから例①のように勇気づけたり、授業中にがんばっている姿を見付けたら例②のように勇気づけたい。



## 【ワーク17への提案】

### 〔場面〕

中学校3年のAさんは、最後の体育祭でクラスのいい思い出を作ろうと思い、団体種目のリーダーに立候補し、みんなをまとめて引っ張ってきた。しかし、当日は失敗してしまい1位になれなかった。そのことが原因でクラスの生徒に八つ当たりするようになった。

### 〈ポイント〉

不適切な行動が出ている段階での勇気づけも必要だが、本来なら努力している過程で勇気づけたい。また、結果が出なかったときの対応が大切である。

### 〈アドラー心理学を生かした対応例〉

#### 対応例①

- ・「リーダーとしての態度や努力する姿が輝いているよ。」
- ・「Aさんのおかげでまとまってきたね。」

#### 対応例②

- ・「リーダーとなりクラスのみみんなを引っ張ってくれたこと、ありがとう。クラスが一つにまとまってみんな喜んでいるよ。リーダーとなってみんなを引っ張ることができる君はすばらしいね。」
- ・「結果は残念だったね。でも、君はリーダーとして大きく成長できたね。おかげでクラス全体が一つになったね。君のがんばりに感謝してるよ。」

### 〈解説〉

八つ当たりする行為は認められないので指導する必要がある。しかし、Aさんの「クラスでいい思い出を作りたい」とがんばっていた思いを受容することが大切である。本来であれば、結果を評価するのではなく、その過程で集団への貢献や努力を勇気づけたい。がんばっている姿を勇気づけるのであれば例①のように、体育祭が終わった段階では例②のように、がんばってきたプロセスを認め、勇気づけたい。

## 【ワーク18への提案】

〔場面〕

中学校3年生のAさんは、毎回のように教科書やノートを忘れてきてしまう。今日も隣の生徒に教科書を見せてもらい、違う教科のノートを出して板書を写し始めた。

〈ポイント〉

教科書やノートを忘れていることを指導するより、他の教科のノートではあるが、一生懸命に書いていることを勇気づける。最大の勇気づけのチャンスは、忘れ物をしないで来たときである。

〈アドラー心理学を生かした対応例〉

対応例①

- ・「一生懸命にノートをまとめているね。」

対応例②

- ・「忘れずに持って来たね。今日も一生懸命に書こう。」

〈解説〉

教科書やノートを忘れていることに注目してしまうと指導したくなる。しかも、繰り返し指導しても改善しない場合は、教師としては厳しく指導しがちである。しかし、ノートを忘れても、別のノートに書こうとしていることは、本人なりの努力と考えられる。この努力に注目しないで、注意・叱責を繰り返すと、返って反発を生むことが予想される。忘れ物が多い場合、家庭環境の問題や発達に関わる問題が潜むこともあるので、「だらしのない生徒」と決めつけず、本人なりの努力を勇気づけたり、なぜ改善できないかをアセスメントし、具体的に指示を出すことが有効な場合もある。

## 【ワーク19への提案】

〔場面〕

高校1年生のAさんは、明るく、他の生徒と関わるのが大好きで、協力して活動できる生徒である。しかし、落ち着いて話を聞くことは苦手で、今日もSHRで担任が話しているときに、隣の席の生徒に話しかけてしまった。注意をされると静かにしたが、しばらくするとまた話し始めてしまった。

〈ポイント〉

できないことに注目する（ないものねだり）より、今できていること（あるところ探し）に注目をし、根気強く勇気づける。

〈アドラー心理学を生かした対応例〉

対応例①

- ・「協力して活動できていいね。」
- ・「いつも仲よく生活できるよね。」

対応例②

- ・「話を静かに聴いてくれてうれしいよ。」
- ・「集中していていいね。」

〈解説〉

何度注意しても改善されないと、教師としては「何で教師の言うことを聞かないんだ。」と思い、さらに強い指導をしてしまいがちである。すると生徒としては、繰り返される指導に不満や反感をもつ切っ掛けとなることがある。ときには「自分ばかり注意される。」と不公平感をもつことにつながることもある。教師としては、注意が繰り返される原因がどこにあるかを考える必要がある。例えば、自分に注目を集めたいがために繰り返すこともある。この場合、注意することは不適切な行動を強化することになる。できないことに注目して注意を繰り返すより、今できていることを勇気づけることが有効である。ふだんの関わりでは、例①のように勇気づける。話をきちんと聞かせたいなら、きちんと聞いているときに例②のように勇気づけ、適切な行動をすることで注目されることに気付かせるようにする。

## 【ワーク20への提案】

### 〔場面〕

高校1年生のAさんは、グループ学習になると、ずっと自分の意見だけをしゃべり続け、他の生徒が意見を言う機会を奪い、一人で勝手に話を進めてしまう。今日のグループ学習でも自分勝手に進めていた。

### 〈ポイント〉

自分勝手に進めることに注目すると指導が優先する。本人の努力を十分に認めることが必要である。本人の努力はグループ学習への貢献である。

### 〈アドラー心理学を生かした対応例〉

「Aさんは、積極的に話を進めてくれているね。ありがとう。自分の意見を聴いてもらっているときは、うれしいよね。他のみんなもよく聴いてくれてたね。みんなの意見が出されると、もっとよい考えが膨らんでいいまとめになるかな。」

### 〈解説〉

本人としては、一生懸命にグループ学習を進めていると思っているだろう。あるいは承認欲求が強く、無意識に行動しているのかもしれない。その努力を認められずに、「もっと仲間の意見を聞かなければだめじゃないか。」とダメ出しされると、本人の自尊感情は育たない。まずは、本人の努力に対してヨイ出しをしたい。また、その生徒と共に活動しているメンバーも勇気づけたい。目立つ生徒のみを勇気づけするのではなく、陰に隠れて目立たない生徒の自尊感情の高揚を図る。他の生徒が発表し、Aさんがよく聴いている状況を見逃さず、勇気づけを繰り返すことが大切である。

## 【ワーク21への提案】

### 〔場面〕

高校1年生のAさんは、数学が苦手で学力も低く、授業中寝てしまうことが多い。授業を妨害することはない、板書を写したり、提出物を出したりすることはできる。今日の数学の授業では、最初は教師の話聞いていたが、そのうちに机に伏せてしまった。

### 〈ポイント〉

授業中に寝てしまう行為に注目するより、適切な行動をしているときに勇気づける。

### 〈アドラー心理学を生かした対応例〉

肩をトントンと優しく叩き、

- ・「どうした？（ノートを見て）ここまではがんばって書いたんだね。」
- ・「丁寧にノートを書いているね。」
- ・「集中した、いい表情だね。」
- ・「授業中にがんばっている時間が延びてきたね。」

### 〈解説〉

授業中に寝ている生徒がいれば、教師としては穏やかではいられない。指導しても改善されないとなるとなおさらである。授業の中に生徒の居場所を作るために授業改善に取り組むことは必要であるが、同時に本人への勇気づけが必要となる。本人の努力やちょっとした成長を勇気づけることが大切である。例えば、授業中に寝ていないときや、少しでも板書を写すことができたとき、うつぶせになっている時間が短くなったときに、努力や成長を認めるように勇気づけたい。

## 【ワーク22への提案】

### 〔場面〕

高校2年生のAさんは人見知りが強く、人と交わることを嫌う。馴れていない人が教室に入ることも嫌がる。学校公開や授業参観のときはトイレに閉じこもり出てこないことがある。教育の日の学校公開授業では、下を向いたまま動かなくなった。

### 〈ポイント〉

不適切な行動よりも適切な行動を勇気づける。この場合、公開授業中に下を向いたまま動かなくなることに着目すると、勇気くじきにつながる発言をしてしまうことが考えられる。

### 〈アドラー心理学を生かした対応例〉

そっと側に行き、「がんばってるね。」「知らない人が来て緊張したと思うけど、よく教室に来たね。」「今日も頑張ってる勉強しているね。先生も君が頑張っている姿を見るとうれしいよ。」等と勇気づける。

### 〈解説〉

教師としては、大切な授業中にクラスで問題が起こると、何とか授業に支障を来さないように解決したくなる。そうしたときには、ついつい口調が強くなったり、強引に対応したりしがちになる。教師と生徒のそれぞれの思いには、ときにはずれがあることを認識することが必要である。このような生徒の場合、グループ学習などで徐々に慣れさせたり、学校行事や授業参観等で、他人と関わった場面を見逃さず勇気づけることが大切である。また、発達障害の可能性もあるので、専門家と連携しながら、対処することも必要である。

## 【ワーク23への提案】

### 〔場面〕

老人ホーム慰問に持参する折り鶴をグループで作るとき、高校2年生のAさんは、「オレはやらないよ。折り紙なんか高校生のやる物ではないよ。」と言ってやらない。

### 〈ポイント〉

生徒の不適切な行動に注目すると注意せざるを得ないが、注意をして無理矢理にでもやらせて、教師と生徒との関係を悪化させるよりは、指導が入る関係づくりの構築を優先する。

### 〈アドラー心理学を生かした対応例〉

対応例① ※一生懸命に折り鶴を作っている生徒に対して

- ・「ありがとうね。一生懸命に作ってくれてうれしいよ。老人ホームの方も喜んでくれるね。」

対応例② ※Aさんが折り鶴を作り始めたとき

- ・「作ってくれるんだね。協力してくれると早く終わって助かるよ。老人ホームの方も喜んでくれるね。」

### 〈解説〉

指示に従わない生徒や、反発する生徒に対しては、「生徒は教師の言うことを聞くべきだ。」「指導しなくてはならない。」という思いにかられると思う。この事例の場合、強制的にやらせたとしても生徒の成長は見込めない上、反発を強める可能性が高いと思われる。まずは指導が入る関係づくりを優先し、強制しないようにした方がよいと思われる。その生徒の分まで一生懸命に鶴を作ってくれる他の生徒を例①のように勇気づけ、最初は拒否していた生徒が、渋々でも活動に加わったとしたら、その瞬間が勇気づけの最大のチャンスなので、タイミングよく例②のように勇気づけたい。集団への貢献を認められたときに、所属欲求・承認欲求が高まると考える。

## 【ワーク24への提案】

### 〔場面〕

高校2年生のAさんは、学力は高くないが学習に対してコツコツと努力できる生徒である。授業で行う小テストも一生懸命がんばってきた。しかし、今日の小テストを配ろうとしたとき、「がんばってもできない。」とつぶやいた。

### 〈ポイント〉

本人の努力を勇気づける。結果だけに目を向けるのではなく、努力の過程やちょっとした成長を見取り、勇気づけるようにする。

### 〈アドラー心理学を生かした対応例〉

「Aさんが一生懸命がんばっていることを知ってるよ。少しずつ成長できるようにがんばろう。困っていることがあれば一緒に考えよう。」

### 〈解説〉

Aさんは、「自分はダメな人間だ。」という意識があるのかもしれない。自尊感情が低い生徒は、社会的自尊感情と共に基本的自尊感情を伸ばす視点が必要である。Aさんは、これまでの経験で、結果が全てと考えていることが予想され、結果が伴わないことで落ち込んでいる。結果も大事であるが、その過程を勇気づけることが大切である。本来であれば、頑張っている姿をその都度勇気づけることで、基本的自尊感情が高まる。



## 【ワーク25への提案】

### 〔場面〕

文化祭のクラス代表に選ばれた高校2年生のAさんは、成功させるために率先して準備をしていたが、周囲は次第にAさんに任せっきりにし始めた。準備が思うように進まないイライラがつのり、非協力的なBさんに対して「何で、協力しないんだよ！」と詰め寄った。

### 〈ポイント〉

文化祭を成功させるため、率先して一生懸命に準備をしていた本人の努力と集団への貢献を勇気づける。

### 〈アドラー心理学を生かした対応例〉

「ここまでよく皆を引っ張ってきてくれたね。Aさんががんばっている姿を見ていたよ。」

### 〈解説〉

詰め寄った場面だけを捉えるとAさんの方が悪く見える。まずは十分にAさんの気持ちの受容に努めることが大切である。しかし、ここまで状況が悪化する前に対応しておくことが必要であった。Aさんの努力や貢献を勇気づけておけば、Aさんとしても気持ちの整理がついたと思われる。同時に他の生徒に対しても、準備段階における努力や集団への貢献を勇気づけておけば、状況は違ったと思われる。常に勇気づけをシャワーのように浴びせることで、生徒の所属欲求や承認欲求は満たされると考える。

アドラー心理学を生かした対応

# 自尊感情を高めよう！ 勇気づけのワーク

## 〈使用上の留意点〉

この資料は、児童生徒の自尊感情の高揚を図るために作成したワークです。

児童生徒が、お互いを受容し、認め合うことができる活動を考えました。

アドラー心理学の視点を生かして、ふだんの教師の関わり方を見直すことで、児童生徒の共同体感覚を高め、自尊感情の高揚を図ることができると考えています。さらに、このワークを補助的に活用していただくことで、効果が高まることを期待しています。クラスの実態に合わせ、ぜひ御活用ください。



# 1 ○○を救え

## (1) 目的

グループ全員で力を合わせて謎解きを進めるワークを通して、友達によさや集団活動のよさに気付くとともに、グループへの貢献感を味わう。

## (2) 準備物

提示資料、タイマー、振り返りシート、学校の地図

## (3) 展開

	学習の内容	指導上の留意点
5	1 4人グループを作り、リーダーを決める。	・学習班をもとにグループを組ませる。
5	2 課題と約束を確認する。 (1) グループのリーダーが封筒を受け取る。 (2) 課題と約束を確認する。	
	<p>&lt;課題&gt; ○○が迷子になってしまいました。学校のどこかに迷い込んでいます。グループで協力して探し出しましょう。</p> <p>&lt;約束&gt;</p> <p>① 自分がもらったカードは、他の人に見せたり、とりかえたりしてはいけません。</p> <p>② カードに書かれていることは、言葉でグループの人に正しく伝えましょう。</p> <p>③ メモを取ってはいけません。</p> <p>④ 時間は20分です。</p>	
20 or 15	3 課題解決をする。 (1) ヒントカードを配る。 (2) ワークシートの学校地図に教室名を記入する。 (3) ○○がいる部屋をみんなで探す。	・時間を計る。 ・グループや個人の動きを確認する。
10	4 振り返りをする。 (1) 振り返りシートに記入する。 (2) グループ内で発表する。	・活動を通して、グループのメンバーのよかったことをよく思い出させ、記録させる。 ・うなずきながら聴くようにさせる。
5	5 本時のまとめをする。	・本時のねらいを説明しながら活動の様子を振り返らせる。

【ワークシート -〇〇を救え-】

--

班 氏名 ( )


西階段

東階段

〔進め方〕

<ul style="list-style-type: none"> <li>① 各自が配付されたヒントカードを順番に提示する。</li> <li>② 全員が確認したら次のヒントカードを提示する。</li> <li>③ ワークシートに、分かった教室名を書き入れる。</li> <li>④ 〇〇がかくれている部屋が分かったら、★印を付けて先生に提出する。 ただし、場所と部屋名が合っていないと正解としない。</li> </ul>
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

今日の活動を振り返りましょう。

グループの仲間	活動で見つけた仲間のよさやがんばっていたところ

【ヒントカード-〇〇を救えー】

※切り離して、各グループに配付する。ヒントカードは、グループのメンバーに等配分する。グループで確認するときは、一人1枚ずつ順番に提示し、グループのメンバー全員が、必ず確認してから次のヒントカードを提示する。

① 1階の西階段から3つ目の部屋は、校長室だよ。	② 校長室の二つとなりの部屋には、かわいい1年生が生活しているよ。
③ 1年生の教室は2つあり、校舎の端にあるのが1年1組の教室だよ。	④ 1年1組の教室の上には、2年1組と3年1組と4年1組の教室があるよ。
⑤ 4階には、西から4年生と5年生と6年生の教室があるよ。	⑥ 1年生と2年生と3年生は2学級、4年生と5年生と6年生は1学級あるよ。
⑦ 6年生の教室から消しゴムを落としたり、1階の職員室前に落ちてきたよ。	⑧ 4階の東階段のとなりからは、いつも楽しい音が聞こえてくるよ。
⑨ 1階の一番端の部屋には、ケガをした人がやって来るよ。	⑩ 保健室の上の階では、おいしそうなおいがあるよ。
⑪ 校長室の上の部屋には、本がたくさんあるよ。	⑫ 図書室の上の部屋では、ビーカーや試験管があり、よく実験をしているよ。
⑬ 職員室の2つ上の階には、使わない物をしまっておく部屋があるよ。	⑭ 〇〇は倉庫のななめ上の部屋に迷い込んでいるよ。
⑮ 理科室と倉庫は隣り合った部屋だよ。	⑯ 理科室の上の部屋は、相談室だよ。
⑰ 2階には2年生の部屋と会議室があり2年2組でさわいでいると怒られるよ。	⑱ 倉庫のとなりは3年2組だよ。
⑲ 3階には図工室があり、真上の部屋のとなりに〇〇はいるよ。	⑳ 4階には、困ったときに相談する相談室があるよ。

【ヒントカード-〇〇を救え- 解答編】

--

班 氏名 ( )

4-1	5-1	6-1	★ 相談室	音楽室
3-1	3-2	倉庫	理科室	図工室
2-1	2-2	会議室	図書室	家庭科室
1-1	1-2	職員室	校長室	保健室
西階段			東階段	

## 2 いいところ探し

(1) 目的

グループでよいところ探しをし、全体でそれがどのグループを指すのかを当てることにより、自己有用感・集団所属意識を高める。

(2) 準備物

紙、筆記用具、生まれ月を表示したプレート、ワークシート

(3) 展開

学習の内容		指導上の留意点
5	1 今日の活動について説明する。	・明るい雰囲気づくりに配慮する。
	<p>① バースデーラインでアイスブレイクする。</p> <p>② グループで他グループのよいところ、感謝しているところなどをまとめる。</p> <p>〔留意事項〕</p> <p>※他のグループの発表に対して、否定的な意見や表情を示さない。</p> <p>※教員が介入して対象グループが重ならないよう調整する。</p> <p>※発表を聞いている他のグループの生徒が、どのグループのことか分かる程度の情報を補足する。</p>	
25 or 20	2 活動に取り組む。	
	<p>(1) ノンバーバル（非言語）でバースデーラインを作る。</p> <p>(2) 誕生日順に4人グループを作って着席する。</p> <p>(3) グループで、他のグループを一つ決め、そのグループのメンバー全員のよいところ、ふだん感謝しているところなど肯定的なメッセージを紙に書く。</p> <p>(4) 1グループずつ発表し、どのグループのことかを当てる。</p>	<p>・活動の際に、否定的な意見を述べたり、表情で示したりしないように確認する。</p> <p>・教師自身が児童生徒に対して肯定的なメッセージを送る。 (教師の発言の例)</p> <p>・「運動神経がよくて、体育祭のときは輝いていましたね。」</p> <p>・「いつもグループ学習のとき、やさしく教えてくれてありがとう。」</p>
15	3 振り返りをする。	
	<p>(1) 説明を聴いてワークシートに記入する。</p> <p>(2) グループ内で発表する。</p>	<p>・ワークシートに、他のグループからの発表を聴いてどうだったか、特に他者から見た自分像で気付いたことはないか振り返らせる。</p>
5	4 本時のまとめをする。	
	・教師の話聴く。	・本時のねらいを説明しながら活動の様子を再度振り返らせる。

【ワークシート -いいところ探し-】

--

班 氏名 ( )

選んだグループの仲間のよいところや感謝しているところを書き出してみよう。

仲間の名前	仲間のよいところや感謝しているところ

〔感想〕今日の活動を通して、感じたこと、考えたことなど、自由に書いてみましょう。

--



### 3 いいところリレー

(1) 目的

グループのメンバーのよいところを言い合い、肯定的な感情を高める。グループで協力して課題を達成することで、自己有用感を高める。

(2) 準備物

提示資料、ヒントカード（班毎の人数×班の数）分、ワークシート

(3) 展開

学習の内容		指導上の留意点
10	1 グループを作り、課題と約束を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 5人以上でグループを作る。</li> <li>・ 他者が嫌がるような意見や反応はしないことを約束する。</li> </ul>
<p>班で協力して、キーワードを探ろう。</p> <p>① 5人グループを作る。</p> <p>② AのとなりのBが、Aのよいところを言う。</p> <p>③ BのとなりのCが、Bの発言に付け加えて、Aのよいところを言う。</p> <p>④ CのとなりのDが、BとCの発言に付け加えて、Aのよいところを言う。</p> <p>※以下同様に、Aのよいところを前に発表されたことに付け加えて述べ、最後にAは全員から発表された自分のよいところを教師の前で発表する。 「わたしは〇〇で、〇〇で・・・〇〇なAです。」</p> <p>⑤ 教師は、児童生徒がうまく伝えられたらヒントカードを渡す。</p>		
25 or 20	2 活動に取り組む。 (1) アイスブレイクで、緊張をほぐす。 (2) 5人で輪になり、よいところリレーを行う。 (3) 教師の前で完璧に言えたら、ヒントカードを受け取る。 (4) 同様にして、班のメンバー全員が言えたら5枚のヒントカードをつなぎ合わせ、5文字の言葉を完成させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 互いのよいところを探しておく。</li> <li>・ 覚えきれない場合には、グループの仲間が助けるなど、実態に合わせてルールを変更してもよい。</li> <li>・ ヒントカードをつなげることで、全員で成し遂げた達成感を味わわせる。</li> </ul>
10	3 振り返りをする。 (1) 説明を聴いてワークシートに記入する。 (2) グループ内で発表する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 振り返りシートに、活動を行っての素直な気持ちを書かせ、グループ内で感想を交換する。</li> <li>・ グループ内での感想を全体でシェアすることで、他者に対する肯定的な感情の共有を図る。</li> </ul>
5	4 本時のまとめをする。	

【ワークシート ーいいところリレーー】

--

班 氏名 ( )

今日の活動を振り返りましょう。

グループの仲間	活動で見つけた仲間のよさやがんばっていたところ

〔感想〕今日の活動を通して、感じたこと、考えたことなど、自由に書いてみましょう。

--

## 4 共同で絵を描こう！

(1) 目的

グループで話し合いながら一つの作品を作る中で、友達と協力する楽しさや、自分が仲間の役に立っているということに気付く。

(2) 準備物

画用紙（人数分）、振り返りカード

(3) 展開

学習の内容		指導上の留意点
5	1 グループを作り、課題と約束を確認する。	・4人でグループを作る。
	<p>課題 グループで協力して、絵を描きましょう。今日のテーマは、「四季」です。春夏秋冬をイメージして、少しずつ描き足していき、一つの作品を作りましょう。</p> <p>約束1 4枚の画用紙に、①春②夏③秋④冬をイメージした絵を描きます。（1枚の画用紙に一つの季節を描く。）</p> <p>約束2 自分で季節をイメージしそれぞれの画用紙に描いたら、次の人に回します。</p> <p>約束3 三回りで、春夏秋冬をイメージした4枚の絵ができます。</p> <p>約束4 できあがった作品を見て、よいと思ったところを発表しあいます。</p>	
25 or 20	2 活動に取り組む。（4人グループ）	・時間を計る。
	(1) 4枚の画用紙に春、夏、秋、冬を割り振り、一人1枚手元に用意する。	・前の人の絵を消さないことを確認する。ただし、前の人の絵を生かし、描き足すのはよい。
	(2) それぞれの画用紙に季節をイメージした絵を描く。	
	(3) 描いたら次の人へ回す。	
10	3 できあがった作品を紹介する。	・自分がかんばったところを発表する。
	(1) がんばったところや気に入っているところを発表する。	・よかったところだけを伝え、批判はしないことを守らせる。
	(2) そのがんばりについて、他の3人がコメントする。	
5	4 振り返りをする。	・よかったところを言語化し共有する。
	(1) 振り返りカードに記入する。	
	(2) グループ内で発表する。	
5	5 本時のまとめをする。	・本時のねらいを説明しながら活動を再度振り返る。
	・教師の話を聴く。	

【ワークシート ー共同で絵を描こう！ー】

--

班 氏名 ( )

今日の活動を振り返りましょう。

グループの仲間	活動で見つけた仲間のよさやがんばっていたところ

〔感想〕今日の活動を通して、感じたこと、考えたことなど、自由に書いてみましょう。

--

## 5 色人（いろびと）探し

### (1) 目的

仲間のよいところを話し合っ探すことで、肯定的な人間関係を醸成し、自尊感情の高揚を図る。

### (2) 準備物

掲示資料、ストップウォッチ、よいところカード、ワークシート

### (3) 展開

学習の内容		指導上の留意点
5	<p>1 6グループを作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の課題と約束を確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前に友達のよいところをカードに書かせ、提出させておく。</li> </ul>
<p>①事前に、代表6人を選出し、6文字をつなげた言葉を考えておく。</p> <p>②各グループに、選出した児童生徒のうち一人のよいところを書いたカードを渡す。カードに書かれた人物が誰かをグループで話し合い、分かったら教師に伝える。代表6人に6文字のうちの1文字を割り当て、当たったグループにその1文字を伝える。</p> <p>③当たったグループには次の生徒のよいところカードを渡す。</p> <p>④6人を探し出し、6文字をつないで言葉になったらゴールとする。</p> <p>※選ばれた6人もグループの一人として参加する。</p> <p>※一つのカードをもとに探せるのは3人まで。3回答えて当てることができなかつたら、言葉を教えてもらえない。</p>		
35 or 30	<p>2 活動に取り組む。</p> <p>(1) 一人目の生徒のよいところを読み上げ、グループで話し合い、ワークシートに記入して、教師に見せる。</p> <p>(2) 当たりの場合、1文字教えてもらい、次の人カードを見せてもらう。</p> <p>(3) 同様の活動を繰り返し、文字をつなげて言葉をつくる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仲間を肯定的に捉えることを確認し、否定的な意見を出さないことを約束させる。</li> <li>・一つのカードで答えられるのは、3人までなのでよく考えるように伝える。</li> </ul>
5	<p>3 振り返りをする</p> <p>(1) ワークシートに記入する。</p> <p>(2) グループ内で発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・誰のどんなことが、グループで役立ったかを発表し合う。</li> <li>・本時のねらいを説明しながら活動の様子を再度振り返らせる。</li> </ul>
5	<p>4 本時のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師の話を聴く。</li> </ul>	

【ワークシート 一色人探し】

--

班 氏名 ( )

	教えてもらったよいところ	グループで考えた仲間	ゲットした文字
1		① ----- ② ----- ③	
2		① ----- ② ----- ③	
3		① ----- ② ----- ③	
4		① ----- ② ----- ③	
5		① ----- ② ----- ③	
6		① ----- ② ----- ③	

ゲットした文字から作った言葉

--

〔振り返り〕

・誰のどんなよさを見つけたかな？グループの仲間それぞれに考えてみよう！

グループの仲間	活動で見つけた仲間のよいところ

## 6 ぼくらの軌跡

### (1) 目的

4月の出会いから学級がどのような歩みをたどってきたのか、これまでの軌跡を振り返り、その時々活動に関わる児童生徒を取り上げインタビューを行うことを通して、児童生徒一人一人がこの学級に所属できてよかったという自己有用感を高める。

### (2) 準備物

掲示資料、デジタルタイマー、グループ交流ワークシート、添付用紙、シール

### (3) 展開

	学習の内容	指導上の留意点
5	1 1年間の振り返りをする。 ・4月の出会いから、クラスマッチや体育祭、文化祭などの学校行事、また学習での成果等を振り返る。	・4月の偶然的な出会いから、様々な出来事を経て、現在の学級の姿になっていることを確認し、担任として感謝の思いを伝えるようにする。
10	2 4月からの出来事やエピソードを振り返り、活躍した人や関わりの深い人についてグループで相談する。	・1年間の軌跡を振り返るのにふさわしい話題を選んで提示する。
	<p>課題 「ぼくらの軌跡」では、みんなのアンケートをもとにしたエピソードに関わりの深い人をみんなで見つけて、その人に語ってもらいます。みなさんは、今から提示するエピソードの中で活躍した人や関わりの深い人をグループで話し合ってみつけてください。もし、他の班の人から情報を得たい場合には、決められた時間の中で聞きに動いてもかまいません。話し合う時間は15（10）分間です。では始めましょう。</p>	
15 or 10	3 様々な出来事で活躍した人や関連のある人を見つけ、ワークシートに名前を記入する。	・15（10）分間を計る。 ・グループの話し合いに関わり、児童生徒とともに考える。
15	4 各班からの発表を聴き、名前の挙がった人からそれぞれのエピソードについてコメントを聴く。	・様々な出来事を振り返りながら、名前の挙がった人だけでなく、皆の関わりを補足していくようにする。
5	5 「ぼくらの軌跡」を完成させる。 ・掲示物にエピソードと名前の書かれたシールを添付し、完成させる。	・完成した掲示物を背面に掲示し、残された学級での生活を有意義に過ごしていくことを助言する。

【ワークシート ーぼくらの軌跡ー】

--

班 氏名 ( )

出来事, エピソードなど	グループで考えた仲間

〔振り返り〕

- ・グループの誰のどんなよさを見つけたかな？仲間のよさを考えてみよう！

グループの仲間	活動で見つけた仲間のよいところ



アドラー心理学を生かした対応

# 「クラス会議」を始めよう！

## ～ 実践事例集 ～

### 〈使用上の留意点〉

この資料は、クラス会議を実践されている先生方の事例をまとめたものです。「椅子を使って輪になるのは時間がかかりそう。」「個人の悩みを議題にして話合いが成立するのかしら。」等と、最初は不安に思われた先生方も、継続する中で個人や学級の変容を感じています。

クラス会議は、結果（話合いで決まったこと）よりも、過程（相手に共感することや意見の違いを乗り越えて折り合いをつけること）に焦点をあて、社会で生きるために必要なスキルと態度を育てるアプローチです。事例集の〈ポイント〉を参考に、児童生徒の様子を具体的にイメージしながら、読み進めて頂ければ幸いです。

「できないことよりも、できるようになってきたことに目を向けること」と「継続して行うこと」がポイントです。最初から完成形を目指すのではなく、児童生徒とともにオリジナルのクラス会議を作りあげていくつもりで、まずは輪になるところから始めてみてはいかがでしょうか。

## 【小学校低学年編】


<b>事例1 ～1年生～</b> ①輪になる。 ②「うれしかったことをおはなししよう」	<b>事例2 ～1年生～</b> ①輪になる。 ②「すきなどうぶつをおしえよう」
---------------------------------------------------	------------------------------------------------

### 〈児童の反応〉

- ・輪になることに、わくわく感を感じる児童が多かった。
- ・トーキングスティックが回ってくるのを楽しみにしており、一斉授業では話すのが苦手な児童も、話をする事ができた。中にはパスをする児童もいたが、周りの児童が優しく受け入れていた。

### 〈ポイント〉

クラス会議を行う準備段階として行った実践である。輪になった後、トーキングスティックを用いながら、クラス会議のルール（トーキングスティックを順番に回すことや、パスをしてもよいこと等）を教師が説明したのちに、肯定的な感情の交流を目的として②を行った。誰もが発言しやすく、共感できる話題にすることで、温かい雰囲気づくりに有効であったと考える。

<b>事例3 ～1年生～</b> ①輪になる。 ②コンプリメントの交換 「クラスのよいところ」を发表しよう。 ③クラス遊びでやりたいことを发表しよう。	
-----------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------

### 〈児童の反応〉

- ・1回目は椅子を使って輪になるのに時間がかかった。そこで、短時間で輪になるための方法を話し合い、試してみた。だが、その方法でも時間がかかってしまったので、別の方法を話し合い、再度試してみた。すると、3分弱で輪になることができ、満足気であった。
- ・コンプリメントの交換では、「給食をよく食べる」や「外遊びが好きである」等、給食と休み時間に対する関心の高さを感じた。

### 〈ポイント〉

椅子を使って輪になるのは時間がかかるからやらない、あるいは短時間で輪になれるように、最初から教師が細かく指示をするのではなく、児童に考えさせ、実際に試させる場を設けることが、課題解決能力の育成につながると考える。

事例4 ～2年生～ 個人の課題に対して、各自が考えた案と解決策

議題	朝の準備（朝自習まで）を早くするにはどうしたらいいでしょうか。
各自が考えた案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・早く歩いて学校に着く。</li> <li>・時計を見ながら準備をする。</li> <li>・準備が終わってからトイレに行ったり飲み物を飲んだりする。</li> <li>・早い人が遅い人を手伝う。</li> <li>・遅い人に声を掛ける。 等</li> </ul>
解決策	時計を見ながら準備をする。周りの人にも声を掛けてもらう。
提案者からの報告	(解決策を試してみて) 前より少し早くなったと思います。

議題	どうやったら勉強ができるようになると思いますか。
各自が考えた案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お母さんに問題を作ってもらって、何回もやる。</li> <li>・ドリルを3回やる。</li> <li>・間違ったところをノートに写す。</li> <li>・分かるところを先にやり、分からないところは後にする。 等</li> </ul>
解決策	ドリルを3回やって、間違ったところをやり直してみようと思います。

議題	友達とけんかしちゃうことがあるんだけど、どうすればみんな仲よく生活できると思いますか。
各自が考えた案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・けんかしているときは、誰かが「けんかはやめな。」と言う。</li> <li>・けんかしちゃったとき、すぐに「ごめんね。」と言う。</li> <li>・いじわるする人から離れて、よいことを言う人と遊ぶ。 等</li> </ul>
解決策	けんかになっちゃったら、「ごめんね。」って言おうと思います。

〈ポイント〉

トークングスティックとして、ぬいぐるみを使用した。ぬいぐるみを用いることで上手な話の聴き方（話をしている人を見る等）が自然とできることが多い。また、柔らかい感触が発言時の緊張緩和の一助にもなっている。



## 【小学校中学年編】

事例5 ～3年生～ 提案者がクラス会議の解決策に満足がいかず、再提案をし、再びクラス会議を行った事例

議題①	ドッジボールのとき、男子が好きな子やかわいい子をねらって、私をねらってくれないからつまらない。ドッチボールのやり方について話し合いたい。
各自が考えた案	<p>&lt;男子&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・弱いところや当てられそうなところをねらっているだけ。</li> <li>・好きとかかわいいとかは関係ない。</li> <li>・（提案者）さんからそう見えるだけ。</li> <li>・女子にも強い人がいるから、問題ないと思う。</li> </ul> <p>&lt;女子&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特別にねらっているようには思わない。</li> <li>・（提案者）さんの言うとおりに、かわいい子をねらっている。</li> <li>・男子対女子だと、女子が勝てないからおもしろくない。</li> <li>・男子対女子のやり方が悪いと思う。</li> <li>・出席番号で分けてチームを作ればいい。</li> </ul>
収束した段階の案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・男子対女子のゲームはやらない。</li> <li>・みんなが納得できるチームを作った方がいい。</li> </ul>
提案者から	私が話し合いたかったことと、話し合いの内容がずれてしまったので、解決できませんでした。ドッジボール以外にも、男子はかわいい子をひいきしていると思うから、再度、クラス会議で相談したいです。
議題②	おにごっこするときも、男子が好きな子やかわいい子だけをねらって追いかけたり、ほめたりしている。私のことはねらってくれないし、ほめてくれない。
各自が考えた案	<p>&lt;男子&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・走り疲れていて、好きとかかわいいとか考える余裕はない。</li> <li>・つかまえたことのない人をつかまえようとがんばっている。</li> <li>・（提案者）さんからそう見えるだけ。</li> <li>・好きとかかわいいとかは関係ない。</li> <li>・かわいい子なんているのか。</li> <li>・すぐにつかまえられそうなところをねらっているだけ。</li> </ul>

	<p>&lt;女子&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・男子にほめられたおぼえはない。</li> <li>・ただ話していただけてはいないか。</li> <li>・誰かがほめられているのを見たことはない。</li> </ul>
収束した段階の案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・おにごっここのとき、好きとかかわいいとかは考えないで、おにごっこに真剣になればいい。</li> <li>・（提案者）さんのかんちがだから、気にしない方がいい。</li> </ul>
提案者から	私のかんちが良かったと思います。次は、気にせず楽しく遊ぼうと思います。ありがとうございました。

〈担任から見たクラス会議の様子〉

議題①の時の様子

担任としては大変興味深い議題だと思ったが、児童の中にはこのような内容を提案することに、違和感を感じている児童もいた。実際に話し合ってみると核心に迫り、解決に向かっていくように見えた。だが提案者としては、男子がひいきをしていることに焦点を当てたかったようで、再度話し合っほしいと提案をした。かなり白熱したクラス会議となった。

議題②の時の様子

前回の反省を踏まえ、ひいきしているかどうかに関心をもち、真剣に意見を出し合っていた。女子をほめていた（と思われていた）男子から直接話を聞くことができ、提案者も納得していた。

（後日、提案者は、自分が気にし過ぎていたことが分かったと話した。）

〈ポイント〉

議題①が、「個人の課題」なのか「学級の課題」なのか、提案者自身も混同していたと思われる。他の児童は学級の課題として捉え、ドッジボールのやり方に対する解決策を考えているが、提案者は話合いが進んでいくうちに、ひいきに対する解決策を求めているところにずれが生じている。しかし、提案者がそのずれを曖昧にせず、再度クラス会議に提案したことは適切な行為と捉えられる。そして、それを受け入れられた学級にも、共同体感覚が育ちつつあるといえる。

1回目があったからこそ、2回目のクラス会議で、ひいきに関心をもち、真剣に話し合うことができていく。提案者は、ひいきをしていると思っていた男子を含め、みんなの意見を十分に聴けたことやみんなが真剣に考えてくれたことにより、最終的には、自分が気にし過ぎていたと捉えることができたと思う。

このクラス会議後に、提案者が男子と楽しく遊んでいる姿があれば、その場面で声を掛け勇気づけを行っていききたい。

事例6 ～4年生～ 個人の課題であるが、同じような思いでいる児童が多かった事例

議題	宿題ができないときがある。家に帰るとゲームをしてしまったり、テレビを観てしまったりして、宿題をする時間が遅くなってしまふ。そして習い事がある日は、なかなか宿題ができない。毎日きちんと宿題をやるには、どうしたらいいでしょうか。
各自が考えた案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家に帰ったら宿題をすぐにやると紙に書いて見えるところにはる。</li> <li>・家に帰ったらすぐに宿題をやることを親と約束する。</li> <li>・習い事の待ち時間にも宿題をやる。</li> <li>・タイマーを使ってゲームの時間を決める。</li> <li>・リモコンを親に預ける。宿題が終わったら出してもらう。 等</li> </ul>
収束した段階の案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家に帰ったらすぐに宿題をやることを習慣にする。</li> <li>・ゲームは宿題が終わったら、親に出してもらう。</li> <li>・習い事の前の少しの時間にも宿題を進めておく。</li> </ul>
提案者が選んだ解決策	家に帰ったらすぐに宿題をやることを親と約束しようと思います。そしてゲームやテレビは、宿題が終わった後にすることを親にも協力してもらおうと思います。

〈担任から見たクラス会議の様子〉

「ゲームをやっている宿題ができない」という同じような思いでいる児童が多かったので、皆、自分のこととして考えていた。しかし、解決策はなかなか考えつかずに、パスをする児童も数人いた。

〈本人からの報告〉

(次回のクラス会議の振り返りの場面で) ゲームとテレビのリモコンは、親に預かってもらい、目に付かないところに置いてある。宿題が終わったら、ゲームをしたり、テレビを観たりするという約束を守っていきたいと思う。

〈ポイント〉

議題の内容によっては、解決策がなかなか出ないことも想定される。しかし、大切なことは、一人一人が議題やその解決策に関心をもって関わっているかである。提案者にとっては、自分と同じような思いでいる友達が多くいること、そしてその友達が自分のことのように受け止めてくれたことが、解決策の実践意欲に繋がったと考える。

事例7 ～4年生～ 家族のことに関する事例

議題	私は毎朝、弟を起こしているのですが、なかなか起きてくれません。いい起こし方があったら、教えてください。
各自が考えた案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・好きなテレビ番組をつける。</li> <li>・苦手な番組をつける。</li> <li>・持ち上げる。</li> <li>・好きな食べ物を置く。</li> <li>・ストーブで部屋を暑くする。</li> <li>・ベッドの下からたたく。</li> <li>・「お母さんが怒るよ。」という。</li> <li>・布団をとる。</li> <li>・目覚まし時計をたくさん付ける。</li> <li>・顔をたたく。 等</li> </ul>
解決策	やさしく持ち上げて起こしてみようと思います。

〈ポイント〉

クラス会議の議題として、家族に関する提案はよくある。学校生活には直接関係ないことでも、個人が困っていることや悩んでいることであれば、議題となるのがクラス会議の特徴でもある。



解決策を集める前に、ブレインストーミングの約束を覚えておくと、多様な考えを引き出すことが可能となる。

【ブレインストーミングの4原則】

- ①判断・結論を出さない。
- ②どんな意見でも歓迎する。
- ③質より量を重視する。
- ④アイデアを結合し発展させる。



【ブレインストーミングの約束の例】

- ①思いついたことは何でも言おう。
- ②人の話は最後まで聞こう。
- ③人の話はまずは「いいね。」と認めよう。

いきなり素晴らしい解決策を求めてしまうと、多様な案は出てこない。これはどうかなと思うような案でも、それが次の案を考える助けになっていることもあるという構えで、教師は話し合いを見守っていきたい。



しかし、あまりにも議題の解決から離れてしまった場合は、教師の介入が必要である。教師が教えるところは教え、見守るところは見守ることが大切である。クラス会議に慣れるまでは、その判断に迷うこともあると思うが、児童とともに作りあげていくことを念頭に取り組みたい。

# 【小学校高学年編】

## 事例8 ～5年生～

議題	1分前行動ができるようにするためには、どうしたらいいですか。 (学級の課題として)
各自が考えた案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・みんなが呼びかける。</li> <li>・タイマーを使う。</li> <li>・休み時間を9分間と思う。</li> <li>・時計を見る。</li> <li>・用事がすんだら席につく。 等</li> </ul>
解決策	時計を見るようにし、用事がすんだら席につくようにしてみましょう。

議題	早く眠るためには、どうしたらいいですか。
各自が考えた案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・9時くらいに布団に入る。</li> <li>・羊を数える。</li> <li>・お風呂の後、少しでもゲームをする。</li> <li>・チャットやゲームをしない。</li> <li>・難しい本を読む。 等</li> </ul>
解決策	今まで夜遅くまでゲームをしていたので、お風呂から出たら少しの時間だけゲームをするようにしてみます。

議題	悪口を言ったり、相手の嫌がる言動をとったりしないためには、どういうことが必要でしょうか。
各自が考えた案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が言われて嫌なことは言わない。</li> <li>・空気を読む。</li> <li>・相手の気持ちを考える。</li> <li>・先生や大人に相談する。</li> <li>・その場から遠ざかる。 等</li> </ul>
解決策	相手の気持ちを考えるように意識してみます。

### 〈ポイント〉

クラス会議後に、実際に解決策を試している場面（直接見ることが難しい場合には本人からの聴き取り）で、本人の努力や頑張りに注目した言葉掛け（勇気づけ）を行うことが、挑戦への意欲を持続させることに繋がる。クラス会議後が、勇気づけを行う最大のチャンスでもある。





事例9 ～6年生～ あるクラスのクラス会議一覧

み：みんなに関すること 個：個人のこと

回	議題	議題の分類	解決策	その後
1	姉によくいじられます。どうしたらいいですか。	個	なるべく関わらないようにする。	解決
2	弟がごはんを食べないのですが、どうしたらいいですか。	個	好きな物は後から食べさせる。	継続中
3	兄によく蹴られます。どうしたらいいですか。	個	嫌だと言う。少し距離を置く。	継続中
4	①早く寝ることができないが、早く寝るにはどうしたらいいですか。	個	テレビやゲームを早くやめて寝る。	継続中
	②姉の言うことに言い返せないのですがどうしたらいいですか。	個	無理に言い返そうとしない。	継続中
	③あいさつ運動でどうしたらみんなが元気にあいさつしてくれると思いますか。	み	(有志の人たちで)手本を示す。	継続中
5	最近お金がたまりません。どうしたらいいですか。	個	かたたたきやお手伝いをしてためる。	解決
6	双子としてセットで見られるが、自分は一人として見てほしい。どうしたらいいですか。	個	服装など外見をできるだけはっきり区別できるようにする。	継続中
7	みなさんはどんなクラスレクリエーションがやりたいですか。(レク係)	み	どんなことがやりたいか分かった。	継続中
8	布団に入ってもなかなか眠れない。どうしたら眠れますか。	個	よい解決策がない。	
9	ゲームがクリアできずに、イライラします。クリアの方法を教えてください。	個	インターネットを見る。	解決
10	クラスのけんかを少なくし、泣く人をなくしたい。	み	人の気持ちに気付く力をつける。	継続中

〈ポイント〉

この事例は、朝の時間を使って継続的に取り組んだ実践である。

クラス会議は、互いの考えを尊重することで、関係性の向上にも繋がる。実際、クラス会議の後には、学級の雰囲気協力的になると感じている教師が多い。だからこそ、短時間でもいいので継続的にやりたい。

継続することのよさとして、今まではトラブルが起こると、「先生、先生!」と何でも頼ってきていた児童が、「クラス会議に提案しようかな。」と変わってくることも挙げられる。教師にとっても「クラス会議で相談してみたら。」と、新たな選択肢を提供することができる。継続して実践することで相乗効果が期待できる。

# 【中学校編】

## 事例10 ～1年生～

議題	親に注意されても、ついつい靴下を脱ぎ散らかしてしまいます。	
各自が考えた案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・習慣づける。</li> <li>・玄関にかごを置く。</li> <li>・紙に書く。</li> <li>・手を洗う時など、何かをやるときに一緒に脱ぐ。</li> <li>・帰ってすぐに洗濯機に靴下を入れる。</li> <li>・代わりに親の手伝いをする。</li> <li>・靴下のためだけに動かない。 等</li> </ul>	
収束した段階の案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・習慣づける。</li> <li>・紙に書く。</li> <li>・手を洗う時など、何かをやるときに一緒に脱ぐ。</li> </ul>	
提案者が選んだ解決策	手を洗う時など、何かをやるときに一緒に脱ぐ。	
提案者からの経過報告	以前よりは、靴下を意識して片付けているので、親にも言われなくなってきた。	

〈担任から見たクラス会議の様子〉

出てきた案を受けて、自分の案に追加して発表する生徒もいて、友達のために解決したいという思いが伝わる温かい雰囲気であった。具体的な解決策も提案され、選ばれた案の他にも拍手が出るような場面があった。

〈ポイント〉

この議題を見て、「中学生にもなって、そんなことやってるの。」「本人が自覚すればいいことであって、話し合うことではないのではないか。」と感じる人もいるだろう。しかしこの議題は、クラス会議の議題として適切な議題である。なぜ提案者がクラス会議後、以前より意識して靴下を片付けるようになったのかを考えると、その理由が見えてくる。他の生徒が温かい雰囲気、自分の課題に対して様々な案を考えてくれたこと、そして最終的には自分にできそうな案を自己選択できたという経験が、生活を改善しようという意欲に結びついたと考える。「些細なことでも一緒に考えてくれる友達がいる。」「困ったことがあったら、クラス会議に提案すればいい。」と思えることが、解決策を見つけることと同様に価値があるのである。



事例11 ～1年生～ あるクラスのクラス会議一覧

議題の分類は、全てみんなに関すること

回	議題	解決策	その後
1	どうしたらクラスがよりよくなるか。 ①クラス会議の「輪」を作る意味とは ②登校できていない友達について ③係活動について	①輪は平等性を示すことを自覚しよう。 ②全員で関わろう。 ③割り振りをするなど、平等性を意識しよう。	解決
2	「体育祭を振り返って」皆で学んだことを伝え合おう。	(仲間への感謝の気持ちを確認することができた。)	
3	清掃時の黙働ができていないところがある。どうしたらいいか。	各自が意識をして、無言の注意をする。	継続中
4	クラスのいいところを見つけよう。	(多くのよさを見つけることができた。)	
5	黒板に落書きがあった。どうするか。	周りをよく見て意識を高くもち、全員で注意する。	解決
6	「文化祭を振り返って」～自分たちのクラスは全力を尽くせたか～	(悔しさも満足感も共有することができた。)	
7	授業態度・・・本当に楽しい授業にするために	全部の授業で、意識を高める。	継続中
8	二学期の反省・クラスのよくなった点を伝え合おう。	(学級として成長していることを自覚できた。)	
9	給食について見直そう。	当番は動く。皆は作ってくれた人に感謝して食べる。	継続中
10	スキー宿泊学習に対する思いを伝え合おう。	(各自がどんな思いをもっているのかが分かった。)	
11	授業態度、提出物について	提出物は必ず出す。人の話をよく聞く。先生方に感謝する。	継続中

〈ポイント〉

清掃や黒板の落書きのこと等、個人から提案されたものを学級の課題として話し合っている議題がいくつか見られる。このような議題の場合、犯人捜しや一部の生徒が責められることがあってはならない。そうならないために、一つは、人にではなく、課題に焦点を当てること、もう一つは、今後の生活の中で、自分あるいは学級にできそうなことを具体的に考えること(未来志向)に焦点をあてていきたい。

議題の中には、コンプリメントの交換が目的と思われる議題(クラスのよいところを見つけよう等)もいくつか見られる。学校生活の中で、感情の共有が図られることは実は少ない。こういった手立ても方法の一つとして有効である。

## 事例12 ～2年生～

議題	<p>立志記念行事として、街道を歩くことになりました。どんなことに意識して30kmの街道を歩けばいいでしょうか。（学級の課題として）</p>
各自が考えた案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長い距離を歩くので、周りの人と頑張る気持ちで取り組む。</li> <li>・街道の歴史に触れながら歩く。・絆を深める。</li> <li>・昔の人は、この道を何のために歩いたのか、疲れたらどうしたのかを考えてみる。</li> <li>・自分に負けないで、諦めない気持ちで取り組む。</li> <li>・怪我をしないように、車に気をつけて集中して歩く。</li> <li>・疲れても励まし合いながら、全員でゴールできるようにする。</li> <li>・ふだん話したことのない人とも、会話をしながら歩く。</li> <li>・クラスを超えて学年全員でゴールする。</li> <li>・どんな道があるのか、楽しみながら歩く。</li> </ul>
収束した段階の案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どんなに辛くなっても、みんなで励まし合って全員でゴールし、絆を深めよう。</li> <li>・街道の伝統に触れ、自分の住んでいる街を大切にしよう。</li> </ul>

### 〈担任から見たクラス会議の様子〉

何のために歩くか分からない生徒が多く、無駄な話合いだと思ってクラス会議に参加している生徒も見られたが、話し合っていくうちに、困難を克服する体験をすることで、自分が夢に向かって頑張る気持ちになれると思うようになってきた。

また、みんなで頑張ることで、友達との絆を深めたいと思う生徒が多かった。

### 〈立志記念行事での様子〉

学級で話し合ったことで、男女仲よく全員でゴールすることができた。辛くなって遅れた生徒もいたが、同じ班の生徒が、待ったり励ましたりしながら一緒に歩く姿が見られた。ゴール後の達成感は、ふだんの生活では体験できないものとなり、何事にも粘り強く取り組める心が育ったと感じた。

### 〈ポイント〉

30km歩くことの意味を、何も考えないまま、もしくは教師から説明を受けて当日参加するよりも、事前の話合いで、歩くことの意味を、自分たちで見い出せたことが、当日の達成感に繋がっている。

事例13 ～3年生～

議題	高校入試を控え、塾を続けた方がいいか、辞めて自分で勉強した方がいいかを迷っています。みんなはどう思いますか。
各自が考えた案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・続けた方がいい。学校の勉強だけでは足りないから。</li> <li>・入試対策とか、特別な学習をしてくれるから続けた方がいい。</li> <li>・分からないところを教えてもらえる。</li> <li>・塾はデータに基づいて進路指導をしてくれる。</li> <li>・今は続けておいて、入試近くになって必要ないと思ったら辞める。</li> <li>・今は塾に行くのを辞めて、必要だと思ったらまた通い始める。</li> <li>・塾に行くと自分の時間がなくなる。</li> <li>・塾に行っているからと安心して家で学習をしなくなる。</li> <li>・お金がかかるから辞めた方がよい。</li> <li>・家の人や塾の先生の言いなりになるから嫌だ。</li> <li>・塾の友達と遊んでしまうこともある。</li> </ul>
収束した段階の案	今は塾を続けておいた方がいいのではないかな。入試近くになって、自分で勉強できると思えば、辞めてもいいのではないかな。
提案者が選んだ解決策	今は塾を続けて、入試近くになり、塾は必要ないと感じたら辞めようかなと思った。
提案者からの感想	みんなが私の悩みを真剣に考えてくれて嬉しかった。塾について色々な意見が出たが、塾によってやり方や相性もあると思うので、私ももう一度よく考えてみたい。
提案者からの報告（後日）	塾を続けることにしました。入試に向かって頑張っています。

〈担任から見たクラス会議の様子〉

同じ悩みをもった生徒や、入試を控えこれから塾に通おうと考えていた生徒も何人かいて、真剣に受け止めていた。活発に意見が交換される中、一人一人の意見を尊重する態度が育ってきた。

〈ポイント〉

入試を控え、不安に思っている生徒も少なくない。提案者が会議の中でも発言しているように、どちらがいいとは一概には言えない。だからこそ、共感してもらえたりことや様々な意見を聴いたうえで、自己決定することに意味があると思う。

## 【高等学校編】

### 事例14 ～1年生～

議題	授業をさぼりたくなかったとき、どう気持ちを変化させたらいいでしょうか。	
各自が考えた案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ とりあえず寝る。</li> <li>・ 音楽を聴く。</li> <li>・ 授業に出る。</li> <li>・ 一年後の姿を想像する。</li> <li>・ 勉強を頑張る。</li> <li>・ 学校内に逃げ場をつくる。</li> <li>・ 入学した時の気持ちを思い出す。</li> <li>・ カウンセリングを受ける。</li> <li>・ 外を眺める。 等</li> </ul>	
収束した段階の案	とりあえず授業に出る。	
提案者が選んだ解決策	一年後の姿を想像して、授業には出ようと思います。	
提案者からの報告	嫌だなと思っても、とりあえず授業には出ています。	

### 事例15 ～1年生～

議題	携帯のメールだと話せるけど、教室だと話せないのが悩んでいます。	
各自が考えた案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 無理に話す必要はない。周りから話し掛けてあげる。</li> <li>・ 挨拶をすることで、コミュニケーションに繋がる。</li> <li>・ 教室で話せないのは悪いことではない。相手のことを尊重できれば携帯のメールで話すことで、十分なのではないか。</li> <li>・ スキンシップを取るとよい。・ 共通の趣味を見つける。</li> <li>・ 話せる環境を作っていただけたい。 等</li> </ul>	
収束した段階の案	話せる環境があるのはいいこと。教室もあいさつから始めたり、スキンシップを取ったりしながら徐々にやっっていけばよいのではないか。	

〈ポイント〉

どちらの事例も、提案者自身が、課題に対する適切な行動は何かを分かっているが、簡単には行動できない自分との葛藤が見られる。こういう議題のときこそ、共感することや少し頑張ればできそうなことを真剣に考え、提案することが、提案者を勇気づけることになるかと捉える。

事例16 ～1年生～ クラスのスローガンを決めるのにクラス会議を3回行い、4回目に掲示方法を考えた事例

議題①	クラススローガンを決めよう
各自が考えた案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・熱い絆 ・スマイル ・温かな輪 ・全力疾走 ・完全燃焼 ・暁</li> <li>・Force of will ・輝く笑顔 ・諦めない夢，諦めない心 ・協力</li> <li>・燃え尽きない魂 ・絶えぬ絆，絶えぬ友情 等</li> </ul>
全体の様子	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれ意見を考えてきており，全員が最低1回は発言していた。</li> <li>・拍手もあり，いい雰囲気であった。 ・次回まとめることにした。</li> </ul>
議題②	クラススローガンを決めよう②
話合いの様子	<ul style="list-style-type: none"> <li>・絶えぬ絆→できている人もいるけど，できていない人もいる。</li> <li>・「絶えぬ絆，熱い友情」で多数決をとると，14人が賛成だった。</li> <li>・反対者の中には「反対したことに深い意味はない。多数決で多かったし，それでいいんじゃないの。」との声もあった。</li> <li>・それに対して「多数決で決めたくない。みんなが納得できるようなスローガンがいい。」と発言する生徒もいた。</li> </ul>
全体の様子	<p>主導権を握る二人が推す「絶えぬ絆，熱い友情」に流れかけたが，反対者がマイナス思考的な発言をした。その後，司会ではない生徒が仕切り始め，より険悪な雰囲気となる。</p>
担任から	<p>意見が食い違っていても，いいクラスにしたいという思いは同じであることを確認し，互いの意見への理解を促した。翌日のクラス会議で再度話し合うことを伝えた。</p>
議題③	クラススローガンを決めよう③
話合いの様子	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仲よく決めよう。</li> <li>・Force of will→理由は違えど〇高に集まったのはそれぞれの意志。未来のために様々な選択を，意志の力をもってしてほしい。</li> <li>・メリハリをしっかりと</li> <li>・メリハリをしっかりとWill（意志）に含まれるのではないかと。</li> <li>・17人の力という言葉を組み合わせたい。 (クラス16人+担任で，17人。)</li> <li>・Force of will～17人の意志の力～にまとまった。</li> </ul>

全体の様子	前回の険悪な雰囲気から一転して、いい雰囲気で会が進行した。前回のクラス会議を通して、多くの生徒が他の意見を聞き入れるということを手学んだ気がする。全員が納得するスローガンが決まった。
その後	副担任を人数に入れていないことにある生徒が気づき、最終的にはForce of will～18人の意志の力～に決定した。
議題④	クラススローガンの掲示方法を考えよう
各自が考えた案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手をつないだ形にする。</li> <li>・影絵でやる。</li> <li>・拡大コピーをする。</li> <li>・手をつないでカーブを描いてみる。</li> <li>・みんなで手をつないで、中心に影が集まるようにする。</li> <li>・大きめの額にスローガンを入れて飾る。</li> <li>・CGを使う。</li> <li>・時間差で撮った写真を重ねる。</li> </ul>
収束した段階の案	影を撮る。額に入れる。
全体の様子	<ul style="list-style-type: none"> <li>・司会が代わってもうまく進行していた。</li> <li>・他の意見を否定はしないように、どのように話したらいいか考えている生徒が多かった。</li> <li>・休み時間に練習で撮影したのが右の写真である。</li> </ul>



#### 〈ポイント〉

この事例では、クラススローガンを多数決で決めたくないという意見が出され、その後も折り合いがつかず、険悪な雰囲気となっている。話合いに熱が入り、話合いのルールを意識できなくなってしまったことが、起因の一つと考えられる。そこで教師が介入するわけだが、険悪な雰囲気になってしまった原因を指摘するのではなく、「いいクラスにしたいという思いは同じである」と確認したことに注目をしたい。また、話合いの続きを次回にしたことで、生徒自らが考える時間を持てたことも効果的であったことが、次のクラス会議の様子からうかがえる。クラス会議の最初に、「仲よく決めよう。」と生徒自ら気付くことができている。教師が「仲よく決めなさい。」と指導した場合との差がここにある。

そして、生徒が納得するまで話し合うことができたからこそ、休み時間に撮影の練習をするまでに繋がったのではないだろうか。



### 事例17 ～2年生～

議題	面接が上手になるためには何をすればいいでしょうか。	
各自が考えた案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今日あった出来事を家の人に話す。</li> <li>・ 恥ずかしがったり照れたりしない。</li> <li>・ 朝、学校に来た時に、面接マニュアルを見る。</li> <li>・ 面接の練習をする時に、面接官を何度もかえて練習する。</li> <li>・ 一対一の会話を増やす。           ・ 相手の目を見て話す。   等</li> </ul>	
収束した段階の案	相手の目を見て話す。面接マニュアルを見る。	
提案者が選んだ解決策	相手の目を見て話すことを意識したいと思います。	

〈担任から見たクラス会議の様子〉

前時に面接の練習を行ったこともあり、自分の課題として考えている生徒が多く見られた。最初はパスをする生徒も複数いたが、出てきた案をもとに全員が意見を述べることができた。

### 事例18 ～3年生～

議題	進路についての悩みをなかなか家の人に言い出せないとき、どのように切り出せばいいでしょうか。	
各自が考えた案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新聞や雑誌などに行きたい学校のパンフレットを混ぜておき、家の人から切り出してくるのを待つ。</li> <li>・ テレビを見ながら何気なく切り出す。</li> <li>・ 私は、家の人とふだんから何でも話すので、進路のこともよく話している。</li> </ul>	
収束した段階の案	何気ない日常会話をする中で話を切り出す。	

〈担任から見たクラス会議の様子〉

進路のことで悩む生徒が多いため、新しい案はなかなか出ずに、友達と同じ意見となる生徒が多かった。しかし、各々が真剣に考えている様子が見られた。

〈ポイント〉

どちらの事例も、たとえ明確な解決策が見い出せなくても、今の気持ちを互いに共有できることが、共同体感覚の育成に繋がると捉える。

アドラー心理学を生かした対応

# 協同学習実践事例集

## 〈使用上の留意点〉

この資料は、協同学習を実践されている先生方の事例をまとめたものです。

児童生徒はペアやグループになったからといって、すぐにすばらしい協力を見せたり、良質なコミュニケーションが生まれたりするわけではありません。

また、良質なコミュニケーションが少ないグループで活動することは、個人で活動するよりも人間関係が悪くなったり、学習のねらいを達成しないばかりかやる気さえ奪ってしまったりする結果をもたらすことさえあります。ペア学習やグループ学習は協同学習と同じではありません。協同学習は、100年以上にわたる試行錯誤に基づく経験、理論付け、どうすれば児童生徒が一番うまく助け合っているかについての研究の成果です。

この事例集は、その研究の成果である「協同学習の技法」を活用することで、ぼんやりしたペア学習やグループ学習を乗り越え、協同的な学び合いのある授業にチャレンジしていただいた報告でもあります。

アドラー心理学の共同体感覚を授業で育成するために、この事例集を参考に協同学習にチャレンジしていただければと思います。

クラスの実態に合わせ、ぜひ御活用ください。

## 【小学校編】

### 「お話テープレコーダー」を用いた国語科協同的な学び指導案

#### ○協同性を高める活動のねらい

「お話テープレコーダー」では、話し手は聞き手に分かりやすく説明をするとともに、聞き手はじっくりと人の話を聞く意識を高めることができる。

#### ○協同性を高める活動の手順（実践する技法：「お話テープレコーダー」）

- ① 一つの絵の描き方を伝える説明を考える。
- ② A, Bのペアになる。
- ③ Aが選んだ絵の描き方をBに説明する。
- ④ Bは、聞いた内容を言い換えずに繰り返しながら絵を描いていく。
- ⑤ 絵が完成したら交代し、Bが説明する人、Aが確認しながら絵を描いていく人となって③, ④を行う。

1 単元名 ことばで絵をつたえよう（小学校第2学年）

2 本時の学習

(1) 目標

聞き手に分かりやすいように、話す事柄の順序や言葉の使い方を考えて、絵の描き方を説明することができる。

(2) 準備物

- ① 活動の流れを書いた掲示用シート
- ② ワークシート
- ③ 絵
- ④ タイマー

3 授業の振り返り

#### ○児童の様子等

- ・課題のトラックの絵の描き方では、部分の名称「運転席」「荷台」などが難しく、説明できない児童がいた。
- ・書いた説明文を絵と照らし合わせて確認するなど、児童の自主的な活動が見られた。
- ・ペア活動の「お話テープレコーダー」（繰り返し）により、相手意識が高まった。話し手は、相手が内容を理解し、復唱しやすいようにゆっくり話をすることができた。聞き手は、復唱して話すことができるよう話し手の言葉を注意深く聞き取ろうとすることができた。
- ・話し手のワークシートを見て復唱している聞き手の児童がいた。
- ・学習の流れが理解できており、話し手と聞き手の交代がスムーズだった。
- ・児童の興味をひく教材で、協同学習の初歩的段階として共同体感覚を高めるのに適していた。

4 展開

学 習 活 動	協同性を高める支援のポイント
<p>1 本時の課題と活動の意味，流れを確認する。 (集合型)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>はなすじゅんじょや形がくわしく分かることばを考えて，絵のかき方をせつめいしよう。</p> </div> <p>2 絵を見ながら説明の内容を四つ（はじめに，つぎに，それから，さいごに）に分けて一人で考えた文章をペアで伝え合う。 (個別・ペア活動)</p> <p>(1) 一つの絵の描き方について順序を表す言葉（はじめに，つぎに，それから，さいごに）に続く説明を各自で考える。</p> <p>(2) 一人が説明，もう一人の聞き手は，説明を復唱しながら絵を描いていく。</p> <p>(3) 絵を描き終わったら，元の絵と話し手のメモ，聞き手が描いた絵を照らし合わせ説明の仕方を振り返る。</p> <p>(4) 話し手と聞き手を交換して，(2)，(3)を行う。</p> <p>3 本時の学習を振り返る。 (集合型)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・元の絵と話し手のメモ，聞き手が描いた絵を照らし合わせ，互いの説明の仕方を振り返る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時の学習で考えた，聞き手に分かりやすい説明の仕方を振り返り，本時のめあてを確かめる。</li> <li>・本時の課題と活動内容についてまた，その活動を通してどのような学びをすることが大切かについて説明する。</li> <li>・活動の流れを提示し，確認しながら学習を進めていくことができるようにする。</li> <li>・例題を提示し，参考にしながら学習を進めることができるようにする。</li> <li>・絵のどの部分を描くか，形や大きさ，場所，向き，数などを落とさないよう意識できるようにする。</li> <li>・説明するときは，相手に聞こえるようにはっきりとした声でゆっくり話すよう意識できるようにする。</li> <li>・説明を聞くときは，分かりやすい順序で説明しているか，事柄を詳しく説明しているかに気をつけて聞くよう意識づける。</li> <li>・よかったところを互いに伝え合うことができるようにする。</li> <li>・分かりにくかったり正しく伝わらなかつたりしたところについて，どのように話せば伝わるか，話合いができるようにする。</li> <li>・友達と関わるよさとともに，自分の学びを振り返り，次時の学習や家庭学習の取組につなげることができるようにする。</li> </ul>

## 「1・2・3・4」を用いた算数科協同的な学び指導案

### ○協同性を高める活動のねらい

「1・2・3・4」を使うことで、自分の考えを説明したり、友達の考えを聞いたりするときに、緊張感を持ちながら話し合いをすることができる。また、一人に任せるのではなく、友達同士で力を合わせて意見を出し合う経験ができ話し合いを深めることができる。

### ○協同性を高める活動の手順（実践する技法：1・2・3・4）

- ① 4人グループになって1・2・3・4の順番を決める。
- ② 全体発表の場面でだれが指名されても説明できるように、グループで話し合いを進める。
- ③ 教師が「今日の発表者」の番号を指定する。
- ④ 全体発表に指名された人は、自分たちのグループの意見を他のグループに説明する。

## 1 単元名 かけ算（小学校第2学年）

### 2 本時の学習

#### (1) 目標

乗法の成り立つ性質やきまりを用いて、進んで3の段を構成することができる。

#### (2) 準備物

- ① 説明のひな形を書いた掲示用シート
- ② 答えを書くホワイトボードとペン
- ③ タイマー

### 3 授業の振り返り

#### ○児童の様子

- ・グループの話し合いでは、順番が決まっているので、それぞれが「指名されたら…」という緊張感があり、しっかりと自分の意見を発表したり友達の意見を聞いたりすることができていた。
- ・なかなか自分の意見を言えない児童も、友達に助けをもらいながら、意見を述べていくことができていた。
- ・指名された児童が発表するときに、それ以外の児童もホワイトボードを持ったり、発表のサポートをすることができていた。

4 展開

学 習 活 動	協同性を高める支援のポイント
<p>1 本時の学習課題をつかむ。 (集合型)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>3の段の九九をつくろう。</p> </div> <p>2 3の段をつくる。</p> <p>(1) 求める方法を考え、ワークシートに書く。 (個人)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アレイ図で表す。</li> <li>・3を累加していく。</li> <li>・前の答えに3を足す。</li> </ul> <p>(2) 考えたことをグループで話し合う。 (4人グループ)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・進行役と発表の順番を決める。</li> <li>・グループで一つの考えにまとめる。</li> <li>・ホワイトボードに書く。</li> </ul> <p>3 求め方を発表し、話し合う。 (全体)</p> <p>(1) グループで話し合った求め方を発表する。 (発表者の番号を知らせる)</p> <p>(2) 3の段をつくる時の大切なことを見つける。</p> <p>4 学習のまとめをする。 (集合型)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3の段では、答えは3ずつ増えていく。</li> </ul> <p>5 適用問題を解く。 (個人)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・めあてと「1・2・3・4」の説明を行う。</li> <li>・「1・2・3・4」の流れを書いたシートを掲示し、活動の流れを説明する。</li> <li>・まず、発表の順番を決め、緊張感をもって話し合いが進むようにする。</li> <li>・進行役の児童が、一人一人の意見を順番に聞いていくようにする。</li> <li>・児童の聴き合う態度を育てるための約束を確認する。</li> <li>・ひな形を使うと分かりやすいことに気付かせたい。</li> <li>・グループで一枚のホワイトボードに書かせる。</li> <li>・発表をよく聞いている児童を称賛する</li> <li>・活動の約束を守ることができたかを振り返る。</li> <li>・活動の中で、個人やグループ、全体の中で気付いたよいところなどを話す。</li> </ul>

## 「クイズでチェック」を用いた社会科協同的な学び指導案

### ○協同性を高める活動のねらい

ペアで協力・協調しながらクイズを解く「クイズでチェック」を使うことで、自分が用意した答えと相手が考えた答えを比較検討することができる。その際、どちらがよいか話し合ったり、自分と違う考え方を知ったりすることができ、互いに考えを深めることができる。

### ○協同性を高める活動の手順（実践する技法：クイズでチェック）

- ① 自分が調べた内容についてクイズを作り、ペアになりクイズを出し合う。
- ② ペアの相手に対して互いに質問を書く。
- ③ 質問の方だけを交換して、相手の質問に答える。
- ④ 答えを比べる。

1 単元名 のこしたいもの つたえたいもの （小学校第3学年）

2 本時の学習

(1) 目標

地域の人々が受け継いできた文化財や年中行事について、見学・調査したり、保存・継承に携わる人から話を聞いたりして調べたことをクイズにし、ペアで協力しながら学習内容を理解することができる。

(2) 準備物

- ① B4用紙人数分
- ② 「クイズでチェック」の流れを書いた掲示物
- ③ 問題作成用プリント（問題作成の手順を書いたもの）
- ④ タイマー

3 授業の振り返り

### ○児童の様子等

- ・グループで協力し合いながら、楽しくクイズを作成をすることができた。自分で考えたクイズをグループの中で出し合い、答えを考えることが楽しく活動できていた。
- ・グループやペア学習の中で、クイズの作成が苦手な友達に、優しくアドバイスをする様子が見られた。
- ・次の社会の時間で、他のグループと問題を出し合いたい、という児童が多く、次時でグループ対抗「〇〇市クイズ大会」を行うことになった。児童は意欲的に取り組むことができた。

4 展開

学 習 活 動	協同性を高める支援のポイント
<p>1 めあてと全体の流れを確認する。 (集合型)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>地域の文化財や年中行事について、調べたことをもとにクイズを作り、発表しよう。</p> </div> <p>2 クイズ作成を行う。(個人)</p> <p>(1)クイズ作成のポイントを確認する。</p> <p>(2)自分で調べたことをもとにして、クイズをたくさん作成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「なぜ～なのか。」</li> <li>・「～はどうして長い間続いているのだろうか。」</li> <li>・「～はどこから来るのか。」</li> <li>・「～を伝える〇〇の気持ちは、どんなだったか。」など</li> </ul> <p>(3)クイズの中からよりよい問題を一つ選び紙に書き出し、その問題の答えをノートに書く。</p> <p>(4)ペアで問題の紙を交換し、答えを紙の下半分に書く。</p> <p>3 ペアでクイズを出し合う。 それぞれに答えを見せ合い、よりよい答えが導き出せるようペアで話し合う。</p> <p>4 授業を振り返る。(集合型)</p> <p>5 本時のまとめをする。(集合型)</p>	<p>・本時のめあてと「クイズでチェック」の説明を行う。</p> <p>・「クイズでチェック」の流れを書いた掲示物を示し、活動の流れを説明する。</p> <p>・自分で調べ学習をした「地域の文化財や年中行事」についてのクイズを考えることを確認する。</p> <p>・人々が、文化財や年中行事を守ったり保存したり伝えたりしている工夫や努力について問題を作成するようにさせる。</p> <p>・最初は答えを考えなくてもよいことを伝え、よりたくさんの問題を作るようにさせる。</p> <p>・答えが〇×や一言で答えられるような問題ではなく、理由や原因、気持ち、方法などを聞く問題にするようにさせる。</p> <p>・問題を作れない児童には、補助プリントを用意する。</p> <p>・B4の用紙の上半分に問題を書き下半分は空けておくように指示する。</p> <p>・それぞれに答えを用意してから互いの答えを交換することで、互いの考えを伝え合えるようにする。</p> <p>・一つの答えにまとめるのではなく、お互いのよいところを認めあえる雰囲気づくりに努める。</p> <p>・本活動の約束を守ることができたかを振り返る。</p> <p>・活動の中で、個人やグループ、全体の中で気付いたよいところなどを話す。</p>



## 「ジグソー」を用いた総合的な学習の時間協同的な学び指導案

### ○協同性を高める活動のねらい

ジグソーを取り入れることで個々の役割が明確になり，学習意欲が高まるとともに，友達の調べたことや考えにふれることで理解が深まり，今後の活動の見通しにつなげることができる。

### ○協同性を高める活動の手順（実践する技法：ジグソー）

- ① 生き物を調べるグループを作る。(専門グループ)
- ② 専門グループのメンバーをそれぞれA，B，C，D，Eとする。
- ③ A，B，C，D，Eが集まり，混合グループを作る。
- ④ 混合グループで自分が調べた生き物について分かったことを発表する。
- ⑤ 専門グループに戻り，さらに調べたいことなどを話し合う。

## 1 単元名 トンボ池を調べよう（小学校第3学年）

## 2 本時の学習

### (1) 目標

トンボ池などに生息する生き物について調べたことの情報交換することで，今後の活動の見通しをもつことができる。

### (2) 準備物

- ① ワークシート
- ② 調べたことをまとめたポスター
- ③ タイマー

## 3 授業の振り返り

### ○児童の様子等

- ・生き物への関心が高まり，調べたことを友達に伝えるという明確な目標をもったことで，学習意欲が高まった。
- ・まず，専門グループで情報を整理する活動を行ったことにより，混合グループでの伝え合いに自信をもって臨むことができた。
- ・自分が調べた内容と混合グループでの発表内容を比較しながら聞くことで，違い等に気付き質問する児童が多かった。
- ・再度専門グループで集まり，今後の見通しをもつ場面では，新たに調べたいことについて多くの意見が出された。

4 展開

学 習 活 動	協同性を高める支援のポイント						
<p>1 本時の学習課題を確認する (集合型)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;"> <p>これまで調べたことを知らせ合おう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの学習を振り返るとともに、本時の学習内容の確認をする。</li> </ul> <p>2 これまで調べたことの情報整理する。(専門グループ)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ヤゴグループ (3グループ)</li> <li>・カマキリグループ (2グループ)</li> <li>・カエルグループ</li> <li>・バッタグループ</li> </ul> <p>3 専門家グループで整理した情報を交換し合う。(混合グループ)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・混合グループを作る。</li> </ul> <table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">Aグループ</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">ヤゴ</td> <td style="text-align: center;">カエル</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">カマキリ</td> <td style="text-align: center;">バッタ</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Aグループ</li> <li>・Bグループ</li> <li>・Cグループ</li> <li>・Dグループ</li> <li>・Eグループ</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報を交換し合う。</li> <li>・情報を交換して気付いた違いについて考える。</li> </ul> <p>4 専門グループで話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・混合グループで得た情報や気付いた違いについて話し合う。</li> </ul> <p>5 学習のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の振り返りをし、次時の活動について知る。</li> </ul>	Aグループ		ヤゴ	カエル	カマキリ	バッタ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまで意欲的に調べたり、観察したりしてきたことを認めることで、児童の自己肯定感を高め、学習への意欲を喚起する。</li> <li>・本時の学習内容を確認することで、見通しをもって臨めるようにする。</li> <li>・活動の流れを提示することで、児童が活動の目的を確認しながら学習を進めていくことができるようにする。</li> </ul> <p>・調べた生き物について、グループの一人一人が、相手に分かりやすく説明できるように準備することを伝える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちとは違う生き物を調べたグループの児童と情報交換をする。</li> <li>・新たに分かったこと、気付いた違いなどはメモをとりながら聞くように助言する。</li> </ul> <p>・他のグループの話聞き、メモを活用させながら、新たに調べたいと思ったことや感想を伝え合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループで集めた情報を整理し、次に調べることを話し合う。</li> <li>・本時の活動でのメンバーの貢献について話し合い、それを基に次時のグループ活動の改善点を確認させる。</li> <li>・調べたいと思ったことや興味をもったことを調べていくことを中心に調べていくことを伝え、次時の学習へとつなげられるようにする。</li> </ul>
Aグループ							
ヤゴ	カエル						
カマキリ	バッタ						

## 「お話テープレコーダー」を用いた算数科協同的な学び指導案

### ○協同性を高める活動のねらい

「お話テープレコーダー」を活用することで、互いに説明し合うだけでなく、必ず相手の説明を確認するようになる。そのため、相手によく聞いてもらえるように明確に話をするようになり、聞き手も話をよく聞こうとする態度を身に付けることができる。さらに、自分の話したことを繰り返してもらえるため、話し手は受け入れてもらえたと感じるとともに、自分の話したことを客観的に聞いて曖昧な内容に気付くことができる。このような活動を通して、協力することのよさを感じることができる。

### ○協同性を高める活動の手順（実践する技法：お話テープレコーダー）

- ① 一人一人が自分の考えをもつ。
- ② ペアになって話し手と聞き手の順番を決める。
- ③ 話し手が自分の考えを説明する。
- ④ 聞き手は聞いた説明をそのまま繰り返して確認する。
- ⑤ 役割を交代して同じことを繰り返す。

## 1 単元名 分数のしくみを調べよう（小学校第4学年）

### 2 本時の学習

#### (1) 目標

同分母の仮分数や帯分数の加法の計算方法を理解し、計算することができる。

#### (2) 準備物

- ① 「お話テープレコーダー」の流れを書いた掲示用シート
- ② 分数を正方形の面積で表した図
- ③ タイマー

### 3 授業の振り返り

#### ○児童の様子等

- ・本単元でこれまでに「お話テープレコーダー」を2回行っている。本時でも2回行ったことで、流れを把握してスムーズに行うことができた。
- ・考えがもてていなくても相手の考えを繰り返すことができればよいことを伝えたことで、安心して行うことができたようである。
- ・計算の仕方の説明は比較的簡潔にできるため、相手の考えを繰り返すこの技法は合っており効果的であると感じた。
- ・全員が考えをもてるような手立ての工夫が必要であった。

4 展開

学 習 活 動	協同性を高める支援のポイント
<p>1 課題と学習の流れを確認する。 (集合型)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <math display="block">\frac{9}{8} + \frac{14}{8}</math> <p>の計算の仕方を考えましょう。</p> </div> <p>(1) 学習の流れと「お話テープレコーダー」のやり方について確認する。  (2) 結果と計算方法の見通しをもつ。  ・ 2より大きく3より小さい。  ・ そのまま分子同士をたす。  ・ 帯分数に直して計算する。</p> <p>2 計算の仕方を考える。(個人)</p> <p>3 「お話テープレコーダー」を行う。(ペア活動)</p> <p>(1) ペアを組み、話す順番を決める。  (2) 片方が自分の考えを相手に説明する。  (3) もう片方は、聞いた内容を言い換えずに繰り返す。  (4) 相手の確認に続けて、自分の考えも説明する。</p> <p>4 計算の仕方について話し合う。  ・ ペアで話し合ったことについて発表を聞く。(集合型)  ・ 発表を聞いて、ペアで話し合う。(ペア活動)</p> <p>5 帯分数同士の加法の計算をする。  <math display="block">2\frac{3}{5} + 1\frac{4}{5}</math></p> <p>(1) 各自計算方法を考える。(個人)  (2) 「お話テープレコーダー」をする。(ペア)</p> <p>6 仮分数や帯分数の加法の計算方法についてまとめる。</p> <p>7 適用問題に取り組む。  ・ 各自取り組む。(個人)  ・ ペアで答えを確認する。(ペア)</p> <p>8 本時のまとめをする。(集合型)  ・ 授業を振り返る。</p>	<p>・ 「お話テープレコーダー」の説明を行い、流れを書いたシートを掲示する。  ・ 指名して発表させ、話せたことを称賛する。</p> <p>・ 考えのもてない児童には、前時の真分数同士の加法の考え方を確認するように伝える。</p> <p>・ 全員が自分の考えをもてるように支援する。  ・ 自分の考えがもてていない児童がいる場合は考えを持っている児童とペアを組ませる。  ・ 結果が出ていなかったり、考えがもてていなかったりしても、相手の考えを繰り返すことが大切であることを伝える。</p> <p>・ 互いに違う考えを説明できていたペアの1人を指名し、相手と自分両方の考えを説明させる。説明できたことを称賛する。</p> <p>・ 仮分数同士よりも短時間で設定しテンポよく行えるようにする</p> <p>・ 活動の中で、個人やペア、全体の中で気付いたよいところなどを話す。</p>

## 「ジグソー」「ダウト」を用いた算数科協同的な学び指導案

### ○協同性を高める活動のねらい

- ・「ジグソー」でそれぞれの理解を確実にするとともに、個々の役割を明確にし、学習班での自分の説明が友達の学びになることを実感し、さらに学習意欲と学び合う意識を高めることができる。
- ・「ダウト」で問題文の内容について質問したり、グループのメンバーで相談したりすることによって思考を深めることができる。また、問題文と式の関係の理解を明確にすることができる。

### ○協同性を高める活動の手順（実践する技法：ジグソー，ダウト）

- ① 4人組の学習班のメンバーをそれぞれA，B，C，Dとする。
- ② A，B，C，Dそれぞれが集まり，グループを作る。
- ③ 割合に関連した一つの式について正しい問題文を二つ，間違いの問題文を一つ作成する。グループで相談し，それぞれが問題を理解し解説することができるようにする。
- ④ 学習班に戻り，出題する順番を決める。
- ⑤ 出題者が三つの問題文を読み上げる。
- ⑥ 班のメンバーは，質問した後，間違いはどれか相談し，担当者が理由をつけて解答する。
- ⑦ 出題者は正解を発表する。
- ⑧ 班でよくできている問題はどれか話し合い，クラス全体に発表する。

## 1 単元名 割合（小学校第5学年）

## 2 本時の学習

### (1) 目標

割合についての式に合う問題を作成し，その説明をすることができる。

### (2) 準備物

- ① 活動の流れを書いた掲示用シート（本実践では電子黒板プレゼンテーション）
- ② 問題文と解説を記入するワークシート
- ③ タイマー（各グループに一つあるとよい）

## 3 授業の振り返り

### ○児童の様子等

- ・ジグソーで問題づくりを行うことで，責任が明確になり，意欲的に問題づくりに取り組むことができていた。また，ジグソーのグループで相談しながら問題づくりに取り組むことで，一人では学習を進めることが難しい児童は友達の力を借りて学習課題を解決することができた。課題を解決した児童は，友達に説明したり援助したりすることで，自分の理解を深めることができた。
- ・活動の意味について説明を丁寧に行ったことで，単なる答え合わせに終わらずに相談しながらお互いの問題の意味を理解しようとする姿が見られた。また，課題に照らして自分の活動を振り返ることができた。

4 展開

学 習 活 動	協同性を高める支援のポイント
<p>＜事前＞ 学習課題を知る。 可能であれば、家庭学習で問題づくりに取り組む。</p> <hr/> <p>1 本時の課題と活動の意味、流れを確認する。 (集合型) 割合についての式に合う問題を作成し、その説明をすることができる。</p> <p>2 問題作成を行う。 (グループ活動) (1) 学習班を離れ、問題作成グループに移動する。 (2) 提示された問題を参考にして、各自が問題とその説明を書く。 (3) グループ内で問題と説明を検討する。</p> <p>3 「ダウトを探せ」を行う。 (グループ活動) (1) 学習班で座り、「ダウトを探せ」実施の約束事を確認する。 ・ 出題の仕方 ・ 質問の仕方 ・ 相談の仕方 (2) 班ごとに順番を決め、出題する。 (3) 問題について質問する。 ・ 出題者以外のメンバー全員が1回ずつ質問する。 (4) ダウトを決める相談をする。 ・ 出題者以外のメンバーで相談し、ダウトを決める。 (5) ダウトとその理由を発表する。 ・ 次の出題者が代表で発表する。  (6) 正解を発表する。 (7) (2)から(6)を繰り返す。  ・ 各班ごとに紹介したい問題を発表する</p> <p>4 本時のまとめをする。 (集合型)</p> <p>5 授業を振り返る。 (個人) ・ 自他の活動の様子とともに、本時の学習課題に照らして自分の理解を振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習活動を事前に知らせ、家庭学習等で問題作成ができるようにする。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本時の課題と活動内容についてまた、その活動を通してどのような学びをすることが大切かについて説明する。</li> <li>・ 例題を提示し、参考にしながら学習を進めることができるようにする。</li> <li>・ グループ内で相談しながら問題を作り、説明の仕方を考えてよいことを伝える。</li> <li>・ グループ内で協力し、全員が問題と説明を完成できるよう声を掛ける。</li> <li>・ 再度「ダウトを探せ」を行う意味を確認し、意識しながら学習活動を進めることができるようにする。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ なるべく全員が質問できるようにする。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全員がダウトの理由を理解することができるよう声を掛ける。</li> <li>・ 「当たった」「外れた」で終わることなく、理由を聴き合っているグループを取り上げるようにする。</li> <li>・ それぞれの問題のよさから、協同的な学習の成果を実感することができるようにする。</li> <li>・ 友達と関わるよさとともに自分の学びを振り返り、次時の学習や家庭学習の取組につなげることができるようにする。</li> </ul>

## 「作家の輪」を用いた音楽科協同的な学び指導案

### ○協同性を高める活動のねらい

- ・「作家の輪」でそれぞれの理解を確実にするとともに、個々の役割を明確にし、学習班での自分の説明が友達の学びになることを実感し、さらに学習意欲と学び合う意識を高めることができる。
- ・「作家の輪」で内容についてグループのメンバーで組み合わせを考えたり、話し合ったりすることによって思考を深めることができる。また、音楽の仕組みについてはグループで演奏し試してみることで理解も深まる。

### ○協同性を高める活動の手順（実践する技法：ジグソー）

- ① 3人組の学習班のメンバーをそれぞれA, B, Cとする。
- ② A, B, Cそれぞれが集まり、グループを作り役割分担をする。
- ③ 一人一人が考えたリズムをワークシートに書く。
- ④ 学習班になりそれぞれの楽器で合わせて確認する。
- ⑤ リズムアンサンブルをグループでつくる。
- ⑥ 終わりの部分を3人で考えてつくる。
- ⑦ 各グループでつくったリズムアンサンブルを学級でつなげて演奏する。

## 1 単元名 リズムをつくってアンサンブル（小学校第6学年）

### 2 本時の学習

#### (1) 目標

打楽器の音色や音楽の仕組みを生かして、リズムアンサンブルをつくることができる。

#### (2) 準備物

- ① 活動の流れを書いた掲示用シート
- ② 一人一人のリズムを記入するワークシート
- ③ グループのリズムアンサンブルを記入するワークシート
- ④ ICレコーダー、CDデッキ、メトロノーム、スピーカー

### 3 授業の振り返り

#### ○児童の様子等

一人一役でリズムアンサンブルを作成する課題設定をしたので責任をもち取り組めた。アンサンブルの中に「反復」と「問いと答え」の話し合いをして入れたので、関わりあいやつくる喜びを感じることができた。また、各グループのアンサンブルを学級でつなげ演奏し録音したことで学級の一体感が感じられ、他のグループの演奏時もリズムをとり応援する姿がみられた。グループ発表後の友達へのメッセージは、次に頑張ろうという励ましやアドバイスが多かったのでファイルに大切に貼っている姿が見られた。

#### 4 展開

学 習 活 動	協同性を高める支援のポイント
<p>&lt;事前&gt; 学習課題を知り，個人のリズム譜4分の4拍子で2小節つくる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習活動を事前に知らせ，グループにわかれておく。個人のリズム譜をつくっておく。</li> </ul>
<p>1 本時の課題と活動の意味，流れを確認する。 (集合型)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動の流れと時間配分を提示し確認しながら学習を進められるようにする。</li> </ul>
<p>音楽の仕組みを取り入れたリズムアンサンブルを作成し，全体でつなげて演奏することができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の最後に全員で曲をつなぎ合わせて演奏をするという目標をもたせる。</li> </ul>
<p>2 リズムアンサンブルをつくる。 (グループ活動「作家の輪」)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ内で相談し，リズムアンサンブルを最後まで完成できるように声をかける。</li> </ul>
<p>(1)学習班になりワークシートの流れに従いリズムアンサンブルの作成をする。 (2)例題を参考にして条件に合ったリズムアンサンブルをつくる。 (3)グループ内で内容を検討する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・共有する楽器は譲り合い，順番に使う。</li> </ul>
<p>3 作成したリズムアンサンブルを演奏する。 (グループ活動)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一人がリズムアンサンブルの曲の一部をつくることと演奏ができたことを称賛する。</li> </ul>
<p>(1)学習班で座り，グループ練習の約束事を確認する。 (2)演奏しながら確認訂正をする。 ・自分が入るタイミングを繰り返し練習する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各グループでつくったリズムアンサンブルをつなげられたことで，協同的な学習の成果を実感できるようにする。</li> </ul>
<p>4 本時のまとめをする。 (集合型)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達と関わるよさとともに，みんなでつくりあげる喜びを味わわせ，これからの音楽活動の取組につなげることができるようにする。</li> </ul>
<p>(1)一グループずつ発表をする。 ・発表の手順に従い，順番にリズムアンサンブルを発表する。 (2)各グループのリズムアンサンブルをつなげて演奏する。 ・録音して再生する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達と関わるよさとともに，みんなでつくりあげる喜びを味わわせ，これからの音楽活動の取組につなげることができるようにする。</li> </ul>
<p>5 授業を振り返る。 (個人)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達と関わるよさとともに，みんなでつくりあげる喜びを味わわせ，これからの音楽活動の取組につなげることができるようにする。</li> </ul>
<p>・自他の活動の様子とともに，本時の学習課題に照らして自分の理解を振り返る。 (1)同じ種類の楽器の友達と感想を交換し合う。 ・木でできた楽器 ・皮でできた楽器 ・金属でできた楽器 (2)学習を振り返り，感想を書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達と関わるよさとともに，みんなでつくりあげる喜びを味わわせ，これからの音楽活動の取組につなげることができるようにする。</li> </ul>



## 「1・2・3・4」を用いた算数科協同的な学び指導案

### ○協同性を高める活動のねらい

「1・2・3・4」を使うことで順番を決めることにより、自分の考えを伝えるという緊張感をもちながら、話し合いを進め、友達と一緒に力を合わせて正しい答えを導くという経験ができる。また、自分の考えを発表したり、友達の考えを聞いたりしながら、分数における除数の大きさから商と被除数の大小関係を判断することができる。

### ○協同性を高める活動の手順（実施する技法：1・2・3・4）

- ① 4人グループになって1・2・3・4の順番を決める。
- ② 誰が指名されても説明できるように、グループで話し合いを進める。
- ③ 指名された人は、自分たちのグループの意見を全体や他のグループに説明する。

## 1 単元名 分数のわり算（小学校第6学年）

## 2 本時の学習

### (1) 目標

- ① 除数が1より大きい場合や小さい場合の商を求め、数直線図や式から商と被除数の大小関係について考えることができる。
- ② 除数の大きさから商と被除数の大小関係を判断できることが分かる。

### (2) 準備物

- ① 説明のひな形を書いた掲示用シート
- ② 答えを書く画用紙とペン
- ③ タイマー

## 3 授業の振り返り

### ○児童の様子等

- ・分数のきまりを導き出すために42をいろいろな数でわって確かめたが、どの児童も熱心に計算を行うことができた。また、グループ内での話し合いにおいても発表の型（「42を○でわったら商は○になり、○（わられる数）よりも大きく（小さく）なりました。」）を決めることで発表できない児童も発表できた。
- ・発表の順番をグループ内で決めることができ、よい雰囲気の中で話し合い活動できた。

#### 4 展開

学 習 活 動	協同性を高める支援のポイント
<p>1 本時の学習内容を知る。(集合型)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>42 g で長さが <math>1\frac{2}{5}</math> m の針金㊸と、42 g で長さが <math>\frac{3}{5}</math> m の針金㊹があります。それぞれの 1 m の重さを求め、42 g と比べましょう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1 m あたりの重さを求めることを確認する。</li> <li>・ 1 m の長さを求めるので、m と書かれている数であることを想起させて計算するよう助言する。</li> </ul>
<p>2 それぞれの針金の 1 m の重さを求める式を書き、答えを求める。(個人)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ となりの人と答えが合っているかを確認する。</li> <li>・ 発表の順番を決め、話合いが進むようにする。</li> </ul>
<p>3 本時の課題をつかむ。(集合型)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>わる数が分数のとき、わる数によってわられる数と商の関係はどうなるのか考えよう。</p> </div>	
<p>4 課題について考える。</p> <p>(1) どんな場合に、商が 42 より大きくなるのか小さくなるのか調べる。(42 をいろいろな分数で割って商を確かめる。)(個人)</p> <p>(2) 4 人グループになって確かめた結果を発表し合う。(グループ活動)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 進行役と発表の順番を決める。</li> <li>・ グループの結果をまとめる。</li> <li>・ まとまった結果を画用紙に書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 班のメンバーに 1, 2, 3, 4 の番号を付ける</li> <li>・ 進行役の児童が一人一人の結果を順番に聞いていくようにする。</li> <li>・ 進め方に困ったら、ひな形を参考に進めるとよいことを助言する。</li> <li>・ わる数を変えることで、商と被除数の大小関係がどう変わるかを説明するよう伝える。</li> <li>・ わる数の大きさを分類しながら商と被除数の大小関係の共通点について話し合うようにする。</li> <li>・ よく聴いている児童を称賛する。</li> </ul>
<p>5 考え方を発表し、話し合う。(集合型)</p> <p>(1) グループで話し合った結果を発表する。</p> <p>(2) わる数と商の関係について分類する。</p>	
<p>6 学習のまとめをする。(集合型)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ わる数 &gt; 1 のとき、商 &lt; わられる数となる。</li> <li>・ わる数 = 1 のとき、商 = わられる数となる。</li> <li>・ わる数 &lt; 1 のとき、商 &gt; わられる数となる。</li> </ul>	
<p>7 適用問題を解く。(集合型)</p>	

## 【中学校編】

### 「特派員」を用いた国語科協同的な学び指導案

#### ○協同性を高める活動のねらい

「特派員」を使うことで、一人一人が学びの必要感をもち、全員が活動に参加することができる。また、誰が特派員になるか分からないため、課題に対して緊張感をもって集中して取り組み、学習効率を上げることができる。さらに、他の班の考えを聞くことで、考えを深めることができる。

#### ○協同性を高める活動の手順（実践する技法：特派員）

- ① 4人グループの生徒に1, 2, 3, 4と番号をつける。(3人グループは3まで)
- ② 教師が課題を提示し、まずは個人で考える。
- ③ グループで話し合う。
- ④ 教師が特派員になる生徒の番号を言う。各グループのその番号の生徒が他のグループで自分たちの考えを説明する。

1 単元名 文法とは・言葉の単位 (中学校第1学年)

2 本時の学習

(1) 目標

言葉の単位として、「単語」という用語の意味を理解することができる。

(2) 準備物

- ① 「特派員」の流れを書いた掲示用シート
- ② ワークシート
- ③ B4用紙班分
- ④ ペン
- ⑤ タイマー

3 授業の振り返り

#### ○生徒の様子等

- ・小学6年生により分かりやすく説明するための工夫をするために、という目的意識と相手意識をもった活動であるため、グループでの話合いや特派員の報告では、積極的に友達との関わりをもった活動ができた。
- ・特派員の貢献を意識するなどして、一人一人の活動をお互いに認め合える雰囲気になった。

#### 4 展開

学 習 活 動	協同性を高める支援のポイント
1 本時の学習課題をつかむ。 (集合型)  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">             「単語」を小学6年生に分かるように説明するにはどうすればよいただろう。           </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題と「特派員」の説明を行う。</li> <li>・活動の流れを書いたシートを掲示し、説明する。</li> </ul>
2 説明の仕方を考える。 (個人) <ul style="list-style-type: none"> <li>・考えるときのポイントを確認する。</li> <li>・図や絵を使ってもよい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学6年生に分かりやすく説明するという相手意識，目的意識をもち，考えるように伝える。</li> </ul>
3 各自が考えたことを基にグループで話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・進行役と発表の順番を決める。</li> <li>・グループで一つの考えにまとめる。</li> <li>・全員が説明できるようにメモをとりながら話し合う。 (グループ活動)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・役割を分担することで，相手のことを考えて話したり行動したりすることの大切さに気付かせたい。</li> <li>・グループ全員が内容を理解できるように，互いに学び合いながら取り組むように助言する。</li> </ul>
4 特派員を行う。 (グループ活動) (1) 特派員の流れを確認する。 (2) 指定された番号の生徒が特派員となり，派遣先の班で説明する。聞き手は，参考になった点，アドバイス，質問等を付箋に書く。(キーワードのみ) (3) 特派員の説明が終わったら，聞き手は参考になった点，アドバイス，質問等を特派員に話す。特派員は質問に答える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・掲示物を使って説明する。</li> <li>・活動が進まない班には，活動の流れを再度説明する。</li> <li>・聞き手は，参考となった点，アドバイス，質問等を付箋に書くように話す。</li> <li>・特派員は，小学6年生に分かりやすく伝えるためにどのような工夫をしたかも説明するように話す。</li> </ul>
5 4の活動をもとに，自分たちの説明の改善点について話し合う。 (グループ活動) (1) 特派員は，4の活動で派遣先から出た意見を報告する。 (2) 報告を基に，小学6年生により分かりやすく説明するための工夫を話し合う。 (3) 話し合いを基に，説明を改善する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・残っていたメンバーは，報告を聞き，特派員の貢献に感謝するように話す。</li> <li>・特派員の報告を基に，小学6年生に，より分かりやすく説明するための工夫を考えるように話す。</li> </ul>
6 授業を振り返る。 (集合型)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの説明のよさから，協同的な学習の成果を実感することができるようにする。</li> </ul>
7 本時のまとめをする。 (集合型)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動の中での協力の仕方などよいところを話す。</li> </ul>

## 「ジグソー」を用いた国語科協同的な学び指導案

### ○協同性を高める活動のねらい

生徒が根拠となる事柄の妥当性を確認できるようにするために、ジグソーでの交流を行う場を設定し、自分の考えを整理して、具体的で客観的な根拠を選び出せるよう配慮した。

### ○協同性を高める活動の手順（実践する技法：ジグソー）

- ① ホスト役の生徒が一人班に残る。他の生徒は同じ立場の班のホスト役の生徒と交流する。交流メモに内容を記録する。
- ② 異なる立場の班と交流する。
- ③ 最初の班に戻り、交流した内容について共通理解を図る。

## 1 単元名 根拠を明確にして書こう（中学校第1学年）

## 2 本時の学習

### (1) 目標

経験したこと等を踏まえ、インタビューを通して書く題材に必要な事柄を取材したり、集めた材料の分類をしたりすることができる。

### (2) 準備物

- ① 文化祭の写真
- ② 交流メモ用紙

## 3 授業の振り返り

### ○生徒の様子等

- ・ジグソーで協同的に話し合いを進めていく中で、友達の意見に耳を傾けながら、必要なことについてメモを取り、自分の考えを深めようとする姿勢が見られた。
- ・全体で練り上げる際、黒板に集合させる型にすることにより、ジグソーでの交流で深めた考えを積極的に発表する姿が見られた。

#### 4 展開

学 習 活 動	協同性を高める支援のポイント
<p>1 本時の学習課題をつかむ (集合型)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">           立場を明確にした上で意見交流を行い、根拠となる事柄を選び出そう。         </div> <p>2 「3年生の先輩の『文化祭を振り返って』の文章を紹介するためにふさわしい写真はどちらか。」という題材について、立場を明確にし、根拠を整理する。 (4人班)</p> <p>(1) 同じ立場の人と3～4人の学習班を形成し、根拠について交流する。</p> <p>(2) 異なる立場の人が、考えた根拠についてどのような意見を述べるか予測する。</p> <p>3 ジグソーの学習班を形成し、意見交流を行う。</p> <p>(1) ホスト役の生徒が1人班に残る。他の生徒は同じ立場の班のホスト役の生徒と交流する。交流メモに内容を記録する。</p> <p>(2) 異なる立場の班と交流する。</p> <p>(3) 最初の班に戻り、交流した内容について共通理解を図る。</p> <p>4 根拠について評価するとともに、全体で練り上げる。(集合型)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 交流や評価の中で出た疑問点や課題点について、全体で練り上げる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 交流しやすいように、あらかじめ机の個数は配置を調整しておく。</li> <li>・ 一人一人の表情の真剣さが伝わるアップの写真と、全体の統率性が伝わるルーズの写真を準備しておく。</li> <li>・ 異なる立場の人に納得してもらうために、よさと課題点を整理するよう助言する。</li> <li>・ 交流メモを配付する。</li> <li>・ 同じ立場の班との交流は、根拠となり得る事柄をより多く見つけ出したり、同じ立場として共感できる意見を検討したりする目的で行うことを助言する。</li> <li>・ 異なる立場の班との交流では批判的な視点に耐え得る根拠を吟味するよう助言する。</li> <li>・ 全体で練り上げる際、座席を黒板に対して2列になるよう配置し、意見を出しやすいよう配慮する。</li> </ul>

## 「作家の輪」を用いた美術科協同的な学び指導案

### ○協同性を高める活動のねらい

「作家の輪」を使うことで、一人一人の学びを基に、全員が活動に参加することができる。また、グループの友達と考えを、交流できるようにするため、課題に対して集中して取り組み、多くの考え方を共有することができる。

### ○協同性を高める活動の手順（実践する技法：作家の輪）

- ① 友達の気付きが活用できる課題を提示して、活動の流れを説明する。
- ② 一人一人の気付きをワークシートに書く。
- ③ 時間になったらワークシートを隣の友達に回す。
- ④ 友達の気付きを読んで、自分の気付きを書き足す。
- ⑤ ワークシートが1周したら、友達の気付きを基に一人一人が課題をまとめる。

1 単元名 イメージを形に一思いをモニュメントにするー（中学校第2学年）

2 本時の学習

(1) 目標

身の回りの風景からイメージを膨らませて主題を考え、その場にふさわしいモニュメントの構想を練ることができる。

(2) 準備物

- ① 「作家の輪」の流れを書いた掲示用シート
- ② ワークシート
- ③ 参考作品
- ④ スクリーン
- ⑤ プロジェクター

3 授業の振り返り

### ○生徒の様子等

- ・課題として出題された視点からイメージを広げ、構想を練るヒントを出すことのできるこの技法の活用により、生徒一人一人が主体的に授業に参加することができた。
- ・友達が提案してくれたアイデアにより作品のイメージを膨らませることができたと生徒の感想に見られるように、友達からの意見を取り入れ、興味をもったことには、更に質問をすることができていた。

4 展開

学 習 活 動	協同性を高める支援のポイント
<p>1 本時の学習課題をつかむ。 (集合型)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>イメージをふくらませて、モニュメントの構想を練ろう。</p> </div> <p>2 写真を基に、作品の構想を練るヒントとなる感想・意見を書く。 (個人) 〈生徒の反応〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・緑が残っているから、落ち着く。</li> <li>・人がたくさん集まる場所になるからにぎやかになりそう。</li> <li>・動物が住んでそう。</li> <li>・笑顔が多い場所。</li> </ul> <p>3 作家の輪の技法を用い、一人一人の気付きをグループで出し合い、作品のイメージを膨らませる話合いをする。 (グループ活動)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・進行役を決める。</li> <li>・ワークシートに観点ごとの気付きを書き足す。</li> </ul> <p>4 3の活動を基に、モニュメント作成の構想を練る。 (個人)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートに記入する。</li> </ul> <p>5 授業を振り返る。 (集合型)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習表に本時の活動の振り返りを記入する。</li> </ul> <p>6 本時のまとめをする。 (集合型)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友達の発表を聞く。</li> </ul>	<p>・プロジェクターを使い、課題と「作家の輪」の説明をする。</p> <p>・活動の流れを書いたシートを掲示し、本時の活動について見通しをもたせる。</p> <p>・形の特徴の見付け方や感想、将来の姿の予想などの例を示し、構想のヒントとなる言葉をワークシートに記入できるよう助言する。</p> <p>・「作家の輪」でそれぞれの観点を参考に、グループの人の写真への気付きをワークシートに記入していくよう助言する。</p> <p>・活動が進まない班には、活動の流れを再度説明する。</p> <p>・モニュメントの形のイメージにつながる発言については、目印をつけるなどして、次の活動につなげるようにする。</p> <p>・視覚的にイメージが形になるよう前時のアイデアトレーニングの作品等を提示する。</p> <p>・グループでイメージを膨らませる協同的な学習の成果を実感することができるようにする。</p> <p>・本時の活動の中での協力の仕方など、活動のよいところなどを生徒に発表させ、本時のまとめをする。</p>



## 「ダウト」と「ジグソー」を用いた国語科協同的な学び指導案

### ○協同性を高める活動のねらい

ブックトークにおいて、表現の工夫や特徴、例示や描写の効果などの紹介に「ダウト」の部分を作ることにより、説明する側は表現を巧みにし、ダウトの部分をオブラートに包むための細やかな表現力が求められる。また、説明を受ける側は、ダウトの部分を見つけるためにより主体的でかつ分析的な読み、本文とブックトークの比較を必要とする。その部分に互恵的な学びが生まれ、協同的な学びが成立すると考える。

### ○協同性を高める活動の手順（実践する技法：ダウト・ジグソー）

- ① 4人の学習班をつくり、全体や部分との関係、例示や描写の効果、工夫などを説明するブックトーク（本の紹介）の資料を配付する。資料の中にダウトの部分を作る。
- ② ブース形式の交流（ジグソー）で、他の班のブックトークを聞く。
- ③ 前半は10分－5分－10分の交流を行う。（5分はもとの班での確認）
- ④ 交流の際には、ワークシートに予測した答えを記入する。
- ⑤ 各班から、ダウトの部分の正解を発表する。各班で答え合わせをする。
- ⑥ 学習を振り返っての話し合いを行う。

1 単元名 「神奈川沖浪裏」 （中学校第2学年）

2 本時の学習

#### (1) 目標

文章全体と部分との関係、例示や描写の効果などを考え、内容の理解に役立てることができる。

#### (2) 準備物

- ① ダウトの流れを書いた掲示用シート（板書でも可）
- ② ブックトークの補助資料、ワークシート（ダウトの答え記入用）、タイマー

3 授業の振り返り

### ○生徒の様子等

- ・単元を貫く言語活動を説明する際に、「ダウト」を作ることを伝えたところ、生徒が「面白そう」と目を輝かせたことが印象的だった。単にブックトークを行うだけでなく、「ダウト」の部分を作ったり、その部分を探し出す互恵的な活動を設定することにより、内容面を深く考察する姿勢が見られるとともに、相手意識が高まり、表現や描写を工夫する様子が見られたり、ブックトークの資料と本文を何度も比較読みしたりする姿が見られた。

4 展開

学 習 活 動	協同性を高める支援のポイント
<p>1 めあてと全体の流れを確認する。 (集合型)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>「神奈川沖浪裏」ブックトークのダウトを見抜こう。</p> </div> <p>2 ブックトークのリハーサルを行う。 (学習班)</p> <p>(1) 補助資料を確認し、ダウトの部分の表現の仕方を工夫する。</p> <p>(2) ブース形式での交流の際、誰が、どの役割で活動するのかを確認する。</p> <p>3 ブックトークダウトを行う。(学習班)</p> <p>(1) ブックトークダウトの約束事を確認する。</p> <p>① 話す人(一人)が班に残り、ブース形式で集まった人にブックトークを行う。</p> <p>② 聞く人は、3人一組で、ブックトークと本文の記述の矛盾を見つけるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートにダウトの部分を記入する。</li> </ul> <p>(2) 時間を決めて、交流する。 (ジグソー学習)</p> <p>① 1回目10分間の中でできる限りのブースに行き、ダウトの情報を得る。</p> <p>② もとの班に戻り、進捗状況を確認する。</p> <p>③ 2回目10分間の中でできる限りのブースに行き、ダウトの情報を得る。</p> <p>(3) もとの班に戻り、ワークシートに記入する。答えについて意見交流する。</p> <p>(4) 各学習班から正解を発表する</p> <p>4 授業を振り返る。(集合型コの字)</p> <p>5 本時のまとめをする(集合型コの字)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・めあてとブックトークダウトの説明をする。</li> <li>・「ダウト」の流れを書いたシートを掲示する。</li> <li>・「ダウト」の部分で、どのように表現するかがポイントとなるので、言葉を選んで説明することを助言する。</li> <li>・役割を分担することで、相手のことを考えて話したり行動したりすることの大切さに気付かせるようにする。</li> <li>・交流の仕方を明確にし、学習班が協同して答えを探そうとできるような配慮をする。</li> <li>・主体的にブックトークに参加できるように助言する。</li> <li>・20分の制限時間の中で、主体的にブックトークに参加できるように伝えるようにする。</li> <li>・出題者以外のメンバーでダウトを決める相談をする。</li> <li>・「聞く準備ができています。」という合図の意味をもたせるために、「ジャージャン！」のような合い言葉を決めて行うよう助言する。</li> <li>・本活動の約束を守ることができたかを振り返ることができるようにする。</li> <li>・個人や学習班、全体の中で気付いたよいところなどについて触れるようにする。</li> </ul>

## 「ジグソー」を用いた保健体育科協同的な学び指導案

### ○協同性を高める活動のねらい

「ジグソー」を使うことで、一人一人がしっかりと役割を果たし、チームへの貢献度が増す。また、自分のチームの特徴からセットプレーを選択する話合いが必要なので、お互いの立場を尊重する大切さにも気付かせることができる。

### ○協同性を高める活動の手順（実践する技法：ジグソー）

- ① チームの4人が異なるセットプレーを受け取る。
- ② 同じセットプレーを選択した者同士で専門家チームをつくり自分のチームで説明するための練習をする。
- ③ 自分のチームで方法を伝え、自分のチームにはどのセットプレーが適しているかを話し合う。
- ④ 全体で成果を確認する。

## 1 単元名 球技（ゴール型 バasketボール）（中学校第2学年）

### 2 本時の学習

#### (1) 目標

話合い活動，チーム練習，ゲーム練習を通して，自分のチームの特徴にあった攻撃方法を見付け出すことができる。

#### (2) 準備物

- ① ジグソーの流れを書いた掲示用シート（板書でも可）
- ② 四つに分けられたワークシート
- ③ タイマー

### 3 授業の振り返り

#### ○生徒の様子等

- ・授業の最後の振り返りの中で，チームに戻ってきて，みんなが理解すると安心し自信がもてることを，生徒は体験的に学んでいた。また，専門家として取り組んだセットプレーを使ってもらうために，セットプレーのよさを工夫して紹介していた。
- ・お互いに，聞き合う態度が育ち，学級に安心感が生まれてきている。さらに，チームの特徴を考えてセットプレーを決定することで，相手のよさやチーム全体のことを考えて話したり行動したりすることができる生徒が増えてきている。

4 展開

学 習 活 動	協同性を高める支援のポイント
<p>1 めあてと全体の流れを確認する。 (集合型)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>セットプレーの練習をジグソー形式で行い、自分のチームに適したセットプレーを選ぼう。</p> </div> <p>2 セットプレーを選択する。 (グループ活動)</p> <p>(1) 四つのセットプレーのポイントを確認する。</p> <p>(2) チームで2人ずつ、どのセットプレーを選択するか決める。</p> <p>3 セットプレーの練習をジグソー形式で行う。 (専門チーム)</p> <p>(1) 4カ所に分かれて、セットプレーの説明ができるように練習する。</p> <p>① 別なチームにディフェンスをしてもらいセットプレーを確認する。</p> <p>② どのように説明するかも考える。</p> <p>(2) 自分のチームに戻り、セットプレーを共有し、どのセットプレーが適しているか話し合う。</p> <p>① セットプレーのポイントを伝えながらチームの前で見本を行う。</p> <p>② チームでも、セットプレーをやってみる。</p> <p>(3) チームで適しているセットプレーを決める。</p> <p>(4) セットプレーを発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• めあてと「ジグソー」の説明を行う。</li>   <li>• 役割を分担することで、相手のことを考えて話したり行動したりすることの大切さに気付かせたい。</li> <li>• セットプレーの専門家になるんだという意識を高めさせたい。</li> <li>• 説明のポイントをアドバイスする。</li> <li>• セットプレーのポイントをそれぞれ、ワークシートに記入させる。</li> <li>• チームの特徴を考えながら、セットプレーを決めるように伝える。</li>   <li>• チームの特徴とどうしてそのセットプレーを選択したのか、他のチームにも分かるように発表させる。</li> <li>• 自分のチームに戻ってきて、うまく説明できたことを、互いに認め合う。</li> </ul>
<p>4 授業を振り返る。(集合型)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 本活動の約束を守ることができたかを振り返る。</li> <li>• 活動の中で、個人やグループ、全体の中で気付いたよいところなどを話す。</li> </ul>
<p>5 本時のまとめをする。(集合型)</p>	

## 「ラウンドロビン」を用いた社会科協同的な学びの指導案

### ○協同性を高める活動のねらい

「ラウンドロビン」法を取り入れることで、自分の考えを班員に伝え、意欲的に学習に取り組ませることができる。また、クラス全体で班ごとの考えを共有することで、友達の考えを参考にして、自ら課題解決する力を身に付けることができる。

### ○協同性を高める活動の手順（実践する技法：ラウンドロビン）

- ① 4枚の写真から課題に対する自分の考えを付箋に書く。
- ② 4人班をつくり、自分の考えを書いた付箋を台紙に貼りながら発表する。
- ③ 班で出た考えを、系統ごとにまとめる。
- ④ その結果をもとに、課題に対して班の答えを見付け、結論を根拠立てて説明する。

## 1 単元名 わたしたちの暮らしと経済（中学校第3学年）

## 2 本時の学習

### (1) 目標

コンビニエンスストアの立地について考えるシミュレーションを通して、他者の意見を参考にしながら立地条件について自分の考えをまとめることができる。

### (2) 準備物

- ① 付箋、KJ法用の台紙、街の地図、コンビニエンスストア模型
- ② ワークシート
- ③ 4枚の写真
- ④ 授業の流れを書いた掲示物（ラウンドロビン）

## 3 授業の振り返り

### ○生徒の様子等

- ・ラウンドロビンにより、生徒の活動が活発になり、一人一人が自分の意見を友達に伝えることができた。
- ・生徒主体の活動にしていくために、付箋を利用したKJ法を利用し、活動の可視化を進めることで、自分たちで考える時間を取り入れることができた。
- ・グループでの振り返りの時間を確保することで、相互評価を通して、今後の活動にお互いの意見が生かされるようにする。

#### 4 展開

学 習 活 動	協同性を高める支援のポイント
<p>1 課題と全体の流れを確認する。 (集合型)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>あなたがコンビニエンスストアの経営者になったら、どこに店を開店するとよいだろうか。</p> </div> <p>2 地図を見て予想をする。(個人) (生徒の反応)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大きい道路に面していた方がよい。</li> <li>・住宅地に近い方がよい。</li> <li>・駅の近くにあるとよい。</li> </ul> <p>3 グループで自分の考えを発表する。 (グループ活動)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えを発表し、付箋を台紙に貼っていく。</li> <li>・台紙の付箋を似たような意見ごとに分けて、その結果を踏まえ、地図及び条件と照らし合わせながらグループの意見を決める。</li> </ul> <p>4 発表する。(集合型)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループで話し合った結果を、発表する。</li> </ul> <p>5 授業を振り返る。(集合型)</p> <p>6 本時のまとめをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域のコンビニエンスストアの写真を見せることで興味関心をもたせ、学習課題を提示していきたい。</li> <li>・コンビニエンスストアはどのようなところに開店すればよいか考え、それを付箋に書き自分の考えをしっかりと見せることで、生徒一人一人が本時の課題に見通しをもてるようにする。</li> <li>・ラウンドロビン法を用いて、4人班の中で自分の考えを書いた付箋を台紙に貼りながら、発表させる。</li> <li>・自分の考えを発表させるときは、必ず根拠を述べるようにさせる。</li> <li>・全員の発表が終わるまで質問はしないという約束事を伝える。</li> <li>・KJ法的手法を用いることで、自分と似たような考えをもった友達と、反対に異なる考えをもつ友達の意見を明確にする。</li> <li>・グループでまとめたコンビニエンスストアの場所を図面に表し、それを用いて、根拠を基に理論立てて説明させる。</li> <li>・自分の考えと友達の考えとで比較検討することで自分の考えを再構築させる。</li> <li>・経営者として開店場所を考えることで、自分たちの生活と経済活動が密接に関わっていることに気付かせたい。</li> </ul>

## 【高等学校編】

### 「お話テープレコーダー」を用いた英語科協同的な学び指導案

#### ○協同性を高める活動のねらい

「お話テープレコーダー」を使うことで、相手の意見に耳を傾けることができる。また、お互いの意見を聞いて繰り返すことによって、聞いてもらえたうれしさや協力すること、自分との違いも発見することができる。

#### ○協同性を高める活動の手順（実践する技法：お話テープレコーダー）

- ① ペアになって、話し手と聞き手を決める。
- ② 話し手が自分の意見を述べる。
- ③ 聞き手は、話し手が述べた内容を繰り返す。
- ④ 役割を交代して、行う。
- ⑤ 全体でコの字型になり、自分のパートナーの意見を述べる。
- ⑥ クラス全体で意見を共有する。

1 単元名 Lesson 7 My Rules (高等学校第1学年)

2 本時の学習

(1) 目標

S・V・O(=that節), I think [that] S' + V' ~など使って、自分の考えを伝えることができる。

(2) 準備物 特になし

3 授業の振り返り

#### ○生徒の様子等

- ・ペアから4人グループのように、徐々に集団を大きくしたことで、話しやすい環境が醸成された。そのため、多くの人前で意見を述べるのが難しい生徒達が意見を言えるようになった。
- ・ペアからはじめると、上手く話ができない生徒も、教わることができた。
- ・自分の意見を聴いてもらえることに、嬉しさを感じている。
- ・テキストの内容と自分の考えを対比しながら学習を進めることができた。

4 展開

学 習 活 動	協同性を高める支援のポイント
<p>1 本時の学習課題をつかむ。(集合型)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>和田選手の活動を読み、 自分の「My dream / My Rules」について考える。</p> </div> <p>2 和田選手の活動について考える。(ペア)</p> <p>(1) 和田選手の夢とは何か？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ My Rules とは何か？</li> </ul> <p>(2) 自分の事について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分の夢について考える。</li> <li>・ 自分のMy Rulesについて考える。</li> </ul> <p>3 自分の考えを発表する。(グループ活動)</p> <p>(1) 自分の夢とルールを述べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ I think thatの表現を含め意見を述べる。</li> </ul> <p>(2) 他者の意見を聴く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 他者の意見を聴き、You think that節～の表現で、相手の意見を肯定する。</li> </ul> <p>4 パートナーの話した内容を繰り返す。 (コの字型活動)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ペアごとに順番に座り、パートナーの意見を全体の前で発表する。発表を聞いて話し手の意見をメモする。</li> </ul> <p>5 本時のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本時の学習を振り返る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全体でテキストの内容を振り返る。</li> <li>・ 内容が理解できているかを確認する。</li> <li>・ ペアの組み方に配慮する。</li> <li>・ 互いに教え合う環境を作る。</li> <li>・ 間違ってもよい雰囲気を作る。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ グループの組み方に配慮する。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ You think that～の表現を使い、相手の意見を繰り返し確認するように話す。</li> <li>・ 板書し、各生徒の意見を分かりやすく表記する。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ メモを取る時間も考慮する。</li> <li>・ 意見の発表の際は、必ず拍手をするように指示する。</li> <li>・ ペア、グループ、全体に形態を変えることで、意見を述べる事に自信をもたせる。パートナーに意見を伝えてもらうことで、緊張感を解き、ペアの結びつきを強める。相手を通じてだが、自分の意見を聴いてもらえることにより、他者の意見も聴けるようになる。</li> <li>・ 自分の意見を聴いてもらえることの嬉しさを感じ、他者の意見について聴き、意見の共有の大切さを考える。</li> </ul>



## 「お隣に聞こう」を用いた国語科協同的な学び指導案

### ○協同性を高める活動のねらい

ペアで質問や解答をすることができ、内容について深く知ることができる。また、質問する生徒と解答する生徒の協力があって成り立つので、お互いの立場を尊重する大切さにも気付かせることができる。

### ○協同性を高める活動の手順（実践する技法：お隣に聞こう）

- ① ペアを2グループづくり、それぞれの生徒をAとBと名づける。
- ② 教師がAに課題に対する質問をする。（与謝野晶子と石川啄木の経歴から分かる境遇と二人の性格について）
- ③ Aは教師の質問に対する答えをBに求める。
- ④ Bは質問に対する答えをAに対して説明する。
- ⑤ Aからの質問に対する対応、または質問がなければ、役割を入れ替えて、次の課題へと移る。
- ⑥ 教師がBに課題に対する質問をする。（それぞれ作者の境遇から分かる歌のイメージについて）以下、上記のとおり繰り返す。

## 1 単元名 短歌と俳句（高等学校第1学年）

## 2 本時の学習

### (1) 目標

与謝野晶子と石川啄木の経歴から分かる境遇と二人の性格について伝え合うことができる。

### (2) 準備物

- ① 解答用プリント
- ② 国語便覧

## 3 授業の振り返り

### ○生徒の様子等

- ・与謝野晶子と石川啄木の経歴から分かる境遇と二人の性格について、ペア学習にすることで、恥ずかしさもなく伝え合うことができていた。
- ・授業の最後の振り返りの中で、ペアでそれぞれの意見交換をすることで活動が楽しくなることを、生徒たちは体験的に学んでいた。
- ・二つ目の課題では、聞き合う態度が育ち、相手のことを考えて話したり行動したりする姿が見られた。

#### 4 展開

学 習 活 動	協同性を高める支援のポイント
<p>1 めあてと全体の流れを確認する。 (集合型)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>与謝野晶子と石川啄木の境遇や二人の性格を考えることで、これまでの学習内容を振り返ろう。</p> </div> <p>2 調べ学習を行う。(個人)</p> <p>(1) 調べた内容を、解答用プリントに記入する。</p> <p>(2) 教師が、それぞれのグループのAに質問し、AはBに解答を求める。 (グループ活動)</p> <p>(3) 全体で教師が作者の境遇や二人の性格をまとめ、内容を共有した上で、次の課題(それぞれの歌の主題)について考えさせ、プリントに記入させる。</p> <p>(4) 教師がそれぞれのグループのBに質問しBはAに解答を求める。 (グループ活動)</p> <p>(5) 板書により作品の主題をまとめ、内容を共有する。</p>	<p>・めあてとお隣に聞こうの説明を行う。</p> <p>・教科書と国語便覧を使用して、与謝野晶子と石川啄木の境遇や二人の性格を考えることを指示する。</p> <p>・お互いに質問や説明を繰り返す中で、相手のことを考えて話したり行動したりすることの大切さに気付かせる。</p> <p>・自分で考える自主性と相手の話を聞く姿勢に注意し、相づちやうなずきを大事にすることを伝える。</p> <p>・教師主導のまとめとならないよう生徒の意見を十分反映させるように努める。</p>
<p>3 授業を振り返る。(集合型)</p>	<p>・相手が話しているときに、相づちやうなずきなどの相手を考えた言動をすることができたかを振り返る。</p>
<p>4 本時のまとめをする。(集合型)</p>	<p>・活動の中で、個人やグループ、全体の中で気付いたよいところなどを話す。</p>

## グループ研究法を用いた数学科協同的な学び指導案

### ○協同性を高める活動のねらい

数学Aの確率の分野の「条件付確率」の導入として、モンティホール問題を題材としくじ引きの確率を考える授業である。グループ研究法を用いて、実際にくじを協力して引くことで、様々な目線にくじ引きの確率について考えることができる。実験結果やくじ引きを体験したことを参考に、グループ内で議論し、確率への興味を高めたい。

### ○協同性を高める活動の手順（実践する技法：グループ研究法）

- ① グループで調べ方を考える。
- ② 実験した結果から、グループ内で話し合い、考えをまとめる。
- ③ グループの考えを報告する。

## 1 単元名 場合の数と確率（高等学校第2学年）

## 2 本時の学習

### (1) 目標

- ① 確率について考え、自分の言葉で自分の考えを表現できる。
- ② グループで協力して実験し、グループの考えをまとめることができる。

### (2) 準備物

- ① トランプ
- ② プリント

## 3 授業の振り返り

### ○生徒の様子等

- ・3人のグループを3組作ったところ、グループ内で役割分担をして、実験に臨む姿が見られた。
- ・積極的に動けない生徒に他の生徒が助言を与える姿が見られ、最終的にはグループ全体で楽しみながら実験に参加している様子であった。実験をしながら確率が高いのはどっちの場合かを議論しているグループが多かった。
- ・グループの考えを発表する場面では、考えを説明することが出来ないグループが多かった。
- ・数学的な思考力を育てるためにも、今後もこういったグループワークを活用したい。

4 展開

学 習 活 動	協同性を高める支援のポイント
<p>1 本時の学習課題を知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>3枚のカードの中に1枚あたりがあるとき、あたりを引く確率を考える。</p> </div> <p>2 条件が加わったとき、確率が変化するかを予想する。</p> <p>3 グループに分かれて実験する。            (1)グループに分かれて、実際にカードを使って実験する。            (グループ活動)</p> <p>(2)実験結果からグループ内の考えをまとめる。            (グループ活動)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・当たりやすくなるのか、はずれやすくなるのか、変わらないのかについて考える。</li> <li>・なぜそうなるのかについて考える。</li> <li>・確率で表すとどうなるのかを考える。</li> </ul> <p>4 グループの実験結果と考えを発表する。            (集合型)</p> <p>5 本時のまとめする。            (集合型)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <math>1/3</math> の確率で当たるということを、確認する。</li> <li>・ 実際にカードを何回か引くことで、条件のイメージをつかむようにする。</li> <li>・ 3～4人のグループに分かれる。3人ならばくじを引く人、引かせる人、結果を記録する人に分かれ、4人ならばくじを引く人と引かせる人のペアを2組作るように誘導する。</li> <li>・ グループの実験結果を、交換したときとしないときそれぞれに分けて発表するよう伝える。</li> <li>・ 交換したほうが <math>2/3</math> の確率で当たりやすいことを確認する。</li> <li>・ 次回から条件付確率について学ぶことを伝える。</li> </ul>

## ダウトを用いた保健体育科協同的な学び指導案

### ○協同性を高める活動のねらい

問題を作成したり解答したりすることで、授業内容を主体的に学習させる。また、問題作成と解答を通して生徒たちがコミュニケーションを図り、共同体感覚を育む。

### ○協同性を高める活動の手順（実践する技法：ダウト）

- ① 4人グループを作る。
- ② 学習した内容について、3択問題（三つの文章）を作成する。
- ③ 出題者が三つの問題文を読み上げる。
- ④ 解答者はダウト（間違いの問題文）だと思う文を考える。
- ⑤ 答えが決まったら、解答者は間違った文章を指さして「ダウト！」と言う。
- ⑥ 出題者が答えを解説する。

## 1 単元名 薬物乱用と健康（高等学校第1学年）

## 2 本時の学習

### (1) 目標

薬物が健康に深刻な悪影響をもたらすことを理解することができる。

### (2) 準備物

- ① ノートPC（授業用のプレゼンテーションソフト）
- ② プロジェクター
- ③ スピーカー
- ④ 配付資料（授業スライド（穴埋め式）、ダウト作成用紙）

## 3 授業の振り返り

### ○生徒の様子等

はじめはどのように問題を作ったらいいのかが分からない生徒が何人かいたが個別に対応する中ですぐに問題作成ができるようになった。生徒たちは問題を作るにあたり、自分で理解する必要性があり、知識の定着につながった。また、楽しそうに問題を作っており、共同体感覚を体感しながら授業を終えることができた。授業時間45分で実施をするのはかなり難しく、通常授業を1時間、ダウトを用いた授業を1時間という形で実施するとなおよいと感じた。

#### 4 展開

学 習 活 動	協同性を高める支援のポイント
<p>1 学習課題を確認する。 (集合型)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>薬物について学習した内容で、ダウト問題を作ろう。</p> </div> <p>2 薬物について学習する。 (集合型)</p> <p>(1)危険薬物について、知っていることを発表発表する。</p> <p>(2)近年の薬物乱用事件について説明を聞く。</p> <p>(3)薬物乱用が与える脳への影響の映像を見る。(3分)</p> <p>(4)映像の内容について説明を聞く。</p> <p>(5)危険薬物について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大麻</li> <li>・覚醒剤</li> <li>・MDMA</li> <li>・コカイン</li> </ul> <p>3 学習内容を生かしてダウト問題文を作る。</p> <p>(1)ルール等の説明を聞く。 (集合型)</p> <p>&lt;ルール等&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3～4人組を作り，一人一問ずつ問題を作り，互いに出し合う。</li> <li>・3択問題を作る。</li> <li>・問題の一つを間違った文章にする。</li> <li>・出題者が問題を読み上げる。</li> <li>・問題を聞き終わったら，解答者は間違った文章をさして「ダウト」とさげふ。</li> </ul> <p>(2)役割分担を決めて，問題を作成する。 (個人型)</p> <p>(3)順番を決め，問題を出し合う。 (グループ活動)</p> <p>(4)どの文章が間違いかを考え，一斉に「ダウト！」と言って指さす。</p> <p>(5)出題者が解説をする。</p> <p>(6)(3)～(5)を繰り返す。</p> <p>(7)感想を書き，班内でシェアリングする。</p> <p>4 本時のまとめをする。 (集合型)</p>	<p>・本時の学習内容の概要を説明する。</p> <p>・資料を配付をする。</p> <p>・近年の薬物乱用事件や映像資料等を見せることで，生徒の興味関心を高めたい。</p> <p>・それぞれの薬物に対して1枚のスライドにまとめる。</p> <p>・ダウト問題が作りやすいようにスライドに簡潔にまとめる。</p> <p>・静かな音楽を流し，問題作成に集中できる環境を作る。</p> <p>・出題者が問題文を読み終えた後考える時間を作るよう話す。</p> <p>・活動の中で，個人やグループ，全体の中で気付いたよいところなどをシェアリングさせたい。</p>

# アドラー心理学を生かした対応 児童生徒はどんなときに勇気づけられる？ 勇気づけのアンケートコメント集

## 〈使用上の留意点〉

この資料は、児童生徒にどんなときに勇気づけられたかをアンケート調査し、そこに書かれたコメントをまとめたもの（抜粋）です。児童生徒がどんな言葉に勇気づけられているかを知ること、これからどのように接していけばよいかの参考になると思います。教師や仲間等の何気ない一言や行為が児童生徒にとって大きな意味をもち、生きる力になっていることを感じ取れると思います。ぜひ、御一読ください。



## 勇気づけのアンケートから(小学校)

努力への注目	運動会のあとまけてしまって、みんなが落ちこんでいる時に先生が「みんなはせいっぱいの力を出されたと思います。白組全体は負けてしまったけど、6年生の競技は全部勝てました。とても最高の運動会でした。」と言ってくれて、運動会ががんばってよかったなあとおもいました。
	持久走大会で目標にとどかなかった時に、いつも声をかけてくれる友達に「いいじゃん。がんばったんだから。」と言われて、次はがんばろうと思えた。
長所への注目	「絵うまいね！」と言われたときに、絵が好きになりました。先生、ありがとうございます！
	いつもそうじをしている先生がいました。私はいつもあいさつをしていたので、「いつもあいさつをしてくれてありがとうね。」って言われました。私はこれからもあいさつをしようと思いました。とてもうれしかったです。
挑戦への注目	なわとびの難しい技ができなかった時、友達が「もう少しできそうだよ。」と言ってくれたのがうれしかった。
	運動会の団長になった。練習後、先生が「指示を出せばみんなちゃんと動いてくれるから、自信をもっていいんだよ。」と言ってくれた。その後の練習も本番もがんばってできた。
進歩・成長への注目	50M走をやった時、先生に「タイムは前より速くなった。」と言われて、今度はもうちょっと早く走れるようにがんばろうと思った。
	きゅうしょくできれいな食べ物が出たとき、友達から「だいじょうぶだよ。」といてくれて、食べたら友達が「たべられたじゃん。」とほめられてうれしかったです。
よい結果への注目	ぼくは必死になって勉強や習字、絵などたくさん学びました。そして、2年生のときに、夏休みの宿題で家庭の日の絵で銅賞をとることができました。そのときは朝会などで表しようされ、うれしかったです。
	テストでなかなか100点が取れなかったけど、たくさん勉強して100点がとれた時、先生に「すごい！できるじゃん。」と言われ、勇気づけられた。
達成への注目	はやぶさを練習していた時、初めてはやぶさが成功したら友達に「すごいじゃん。」「よかったね。」と言われたので、がんばって練習したかいがあったなと思った。
	算数の授業で、問題を正解した時、先生に「やればできるんだな。」と言われた。
能力への注目	鉄棒でだるまという技をやっていたら、友達にすごいねと言ってもらって、たくさん練習した。そしたらたくさんできるようになった。
	友達と一緒にはやぶさをやっていたら、先生に「はやぶさができてすごいね。」とほめてくれてすごうれしかった。
異変の察知	宿泊学習のとき、こまっているぼくに先生が火を大きくする方法を教えてくださいました。
	ノートのページがないとき、どうしようと思っていたときに、自分ののーとをとって「はい！」と言って1ページくれたこと。
貢献への注目	友達が転んでしまったり、けがをしまったりして先生に言ったら「教えてくれてありがとう。」と言われました。
	帰りの会の後、黒板の日にちを書くところを1週間毎日書いていたら、友達に「毎日、帰りに日にちを書いていてえらいね。」と言われた。毎日書いていることをほめられてうれしかった。



受容・共感	私が悲しんでいるとき、考えごとをしているときに、友達がとなりにきてなぐさめてくれたり、考えごとをきいてくれてやさしい答えをだしてくれたとき。
	とても悲しいことがあった時に、友達が私の話を自分のことのようにきいてくれた。私は「分かってくれる人がいてよかった。」と思った。その友達とは今も仲良しだ。
支援の表明	日直でこぼんけしをしていて、時間がおわりそうだったときに友達に「こぼんけししてつだうよ。」といてくれてとてもいいきもちになった。
	4年生のときにつぼうができなくて練習してたら、先生やともだちがきてくれておうえんしてくれて、やっとできるようになった。
親身に関わる	ケンカをした時に、あまり元気がなく、下を向いて歩いていたら、声をかけられた。テンションの高い子で、いろいろと話かけられた。でも気持ちが暗い時に話しかけるとイライラして、「あまり話しかけないで。」って言ったら、「ケンカして暗いと、みんな暗くなるよ。」と言われて、明るい気持ちでいようと思った。
	私がクラスの友達とうまくいかなくて、親友に相談したら「私たちがずっと一緒にいるよ。だから元気出して。」と言われて。とてもうれしくなり、その後、クラスの友達ともなかよくなれた。
信頼・期待を伝える	「自分の好きなことをすすんで学ぼうとすることはとてもすきなことです！好きなことをもっと知りたいという気持ちを大切にね。あなたはれきしはかせになれるね。」というふせんが入っていたので、もっとやろうという気持ちになりました。
	先生に「やればできるのだから、もっと積極的に頑張ってらん。」と言われて、自分には何かできることがあると感じて勇気づけられた。それに、自分のことを分かってくれてうれしくなった。
味方になる	自分は関係がないのに、けんかに巻き込まれて、給食セットを投げつけられたりした。その後、泣きながら体育館に行ったら、友達が「大丈夫？」と聞いてくれた。次に内容を話したら、「泣くなよ。男だろ。おれがそいつに言ってやるよ。」と言ってくれた。それでそのいじわるした友達にバシッと行ってくれた。その事がうれしかった。
	友達にのけものにされた時、他の友達が「いっしょに遊ぼう。」と言って励ましてくれた。
失敗を責めない	セロハンテープの台をこわしてしまって、先生に自分からあやまったら、怒らないで、素直にあやまったことをほめてくれた。
	5年生の運動会の係で、得点を間違えてしまったとき、友達に「次ががんばればいいんだよ。」と言われ、次もがんばろうと思いました。
気持ちを汲む	授業のとき、手をあげて発表したらまちがえてしまって、授業が終わったときがっかりしていました。でも、やさしい友達が「べつにまちがえてもいいんだよ。」とゆうきづけられました。そのときの気持ちはとても温かい気持ちでした。
	私が学校の絵でしようをとったとき、「何でこんな絵が選ばれるの？」って言われたときに、他の子が「すごいね！うまいね！」言ってくれてとてもほめてくれて、勇気づけられた。
連帯する	遠足で、私の足が痛くなった時に、友達が「いっしょにがんばろう。」といてくれた時に私もがんばろうと思いました。
	学力診断テストで、自信がなかった時に、友達に「いっしょにがんばろう」といてくれたときに自信が出て、がんばろうと思いました。
支援者への好意	友達に「歴史が得意なんだね。」と言われてもあまりうれしくなかったけど、上級生に「歴史が好きっていいね。」と言われてとても勇気づけられた。だから、ぼくもすぐれた才能をもつ下級生をみたら、その行動をほめてあげたい。

## 勇気づけのアンケートから(中学校)

努力へ注目	<p>体育の時間、私が一人だけ高飛びが飛べなかったとき、周りにいた友達や先生が「頑張れ。」と応援してくれた。帰るときに先生から、「今日の体育頑張ってたね。」と言われて、高飛びは苦手だったけど、楽しいなと思った。だから、私は、これからも高飛びをもっともっと好きになって頑張ろうと思った。それが私の勇気づけられた経験です。</p>
	<p>学年主任の先生から、「今までやってきたことは無駄じゃないから、全力でやりきって。」という言葉で、勇気づけられた。</p>
長所への注目	<p>部活動で、友達関係で悩んでいたときに、先生に、「お前は、2年生の中で一番気持ち熱い。どんなことがあっても自分らしく、やっていけ。」と言われたこと。</p>
	<p>学級活動で、「クラスの一人一人のいいところを見つける。」という活動をしたときに、「自分はみんなからこんなふうに思われているんだな。」とちょっと照れくさい気持ちがありました。自分では分からないことがたくさんあり、久しぶりに自分と向き合った気がしました。今では自分にはあまり自信がなかったけれど、この学級活動を終えて勇気づけられました。</p>
挑戦への注目	<p>私は剣道部に入り、6月の総体の時、顧問の先生から、「攻めて攻めていけば、少し強く見える。それに、何もやらないで負けるよりは、少しは戦って負けるほうがいだろう。全力で行ってきな。」という言葉に感動した。結果は負けてしまったが、先生からも先輩からも、ほめられた。あのときの言葉がとても勇気づけられた。</p>
	<p>2年生の頃、うまくいかず悔しくて何度も泣いていた時に、担任の先生から「大丈夫、今までの力を出し切ろう、頑張ろう」と言ってくれて頑張ることができた。</p>
進歩・成長への注目	<p>部活動の先生に「お前はしっかり練習もこなして、力もついてきているから、もっと自信をもて。」と言われたこと。それを聞いて、少し自信がついた。</p>
	<p>社会のノートをチェックされ、あまりよいまとめ方ではないと言われた。それから、僕はノートのまとめ方を工夫し、黒板に書かれていること以外にもノートに書くようにした。数日後、社会の先生に「頑張っているな。」とほめられたこと。</p>
よい結果への注目	<p>テスト返しの時に、先生に「よく頑張ったね。」と言われたので、勉強して良かったと思った。また、次も頑張ろうと思った。</p>
	<p>数学が苦手だったけど、難しい問題が解けたときに、友達がほめてくれて、そこからやる気が出た。</p>
達成への注目	<p>テストの点数がいつもより良くて、友達に「いつもよりは、よい点数だよ。」と言って、友達にテストを見せたら、「すごいね。」「次はもっと点数を取れるといいね。」などと言われて、次も頑張ろうという気持ちが出てきました。</p>
	<p>学級目標を作ったときに、先生からほめられたこと。</p>
能力への注目	<p>部活動の顧問の先生から、「お前はもしかしたら、県西でトップを争うぐらいのフィジカルが強くて、すごい選手かもしれないんだぞ。」と言われたことです。</p>
	<p>部活動で、うまくいかないときに、先生が、「お前には、お前の良さがあるから、自信をもってプレーしろ。」といわれたこと。</p>
モデルの存在	<p>私は部活で、なんだかうまくいかないときがあった。何回やってもうまくいかない自分に嫌気がさしていたのかもしれない。そして、だんだん嫌になった。それを友達の〇〇さんに話した。すると、〇〇さんは、「好きだからやっている。」と返答があった。それがどれだけ支えになったか覚えている。うまくなりたいうという目標が、その人のおかげでだんだんと分かった。「好きだから。」が私の心の支えになり、部活動に励むことができた。</p>
	<p>自分のクラスでは、クラス会議をしている。その中の話題で、「みんなのいいところ」みたいなことをしている。Aさんは、いつもいろいろなところに気を配っていて、その時もたくさん発表している。Aさんから、いいことをしていると、誰かが絶対みていてくれるということが、教えられた。</p>
継続的な肯定的関心	<p>誕生日の朝、学校に来たとき、机に付箋で「お誕生日おめでとう。」と書いてあったこと。</p>
	<p>部活動で、友達が強くなり今まで勝っていた友達に負けるようになった。そのため僕は頑張っても勝てないのだからあきらめたほうがいいと思っていました。でも先生に、あきらめずに自分のよいところを伸ばしなさいや分からないところやうまくいかないことがあれば先生に相談しなさいと言われ勇気づけられた。</p>
異変への察知	<p>体育の時に怪我をして、無理して縄跳びをやっていたら、それを分かった友達が、心配して声を掛けてくれた。それもクラス全員だったので、すごくうれしかった。</p>
	<p>親指を怪我したとき、友達がさりげなく絆創膏をくれた。</p>
貢献への注目	<p>授業中、友達が問題が解けなくて困っていたときに、私が教えてあげたら、友達が、「分かりやすかったよ。また教えてね。ありがと。」と言ってくれて、うれしくなり、また、教えてあげようと思った。</p>
	<p>部活で、まだ環境に慣れていなかった私は、手伝いを進んで、一生懸命にやるのが精一杯でした。すると、ある日、私が手伝いをしていたところをみていた先生が、「しっかりしているね。すごく頼もしいよ。」と部活で初めてほめられ、勇気が出てきました。これからも先輩の手伝いや部活動を頑張りたい。</p>

存在価値への注目	友達に合わせて、自分気持ちを言えずにもやもやしていて、体調がすごく悪かったとき、保健の先生から、「あなたは、あなたなんだから。自分を信じてみなさい。」と言われたのがとてもうれしかった。自分の存在を認めてもらえたように感じた。
	部活が辛くて、「私なんかいないほうがいい。」と思っていたとき、部活のメンバーの一人が、落ち込んでいる私をみて、「大丈夫。そんなことないよ。みんなで作っていく部活なんだから、一人がやめたりしたら、逆にみんな心配するよ。だからそんなこと思わないで。」と言ってくれた。それ以来、私は、自分の必要性を感じて部活をやるようになった。
受容・共感	ある日、部活動で目を怪我してしまい、学校に行くのが嫌でした。ばかにされるかななどと思って学校に行きました。すると、ある男の子が言ってくれたのです。「大丈夫、お大事に。」と。私は、その言葉に勇気づけられ、次の日から、学校に行くのが不安でなくなりました。私は、すごく感謝しています。
	部活の先生から、「無理して笑わなくていいんだよ。」と言われた時。私のことを分かってくれていたんだなと感じた。
支援の表明	体育の壁倒立の時、怖くて足が上がらなかったけど、友達が「支えてあげる。」と言ってきて、勇気が出ました。
	クラスで喧嘩をしたときに、周りの友達から、「元気出して。」「大丈夫。」など心配してくれて「一緒に頑張ろう。」と声を掛けてくれたことで勇気づけられた。
ありのままの肯定	ある先生に悩みを相談した時、「〇〇はいろいろと考えて頑張り過ぎちゃうから、無理したらダメだよ。頑張らなくていいんだよ。」と言われた。「頑張らなくていい。」という言葉が胸に響いてとても安心して、勇気づけられた。
	失敗してから「もう二度とこんなことをしない。」と心に誓い頑張ってきた。そうしたら、先生に、「失敗していいんだよ、そこからどこまで頑張ろうとするかの気持ちだよ。」と言ってきて、人一倍頑張るようにしている。
親身に関わる	体育で、ハードルがうまくできなかつたとき、熱心に先生が教えてくれた。そのおかげで、タイムが上がったときすごく喜んでくれたので、また、頑張りたいと思った。
	小学4年生の時に、左手首の骨が2本折れてしまった。その時に、家族や友達にとっても心配を掛けてしまった。次の日、学校に行くとクラスの人たちがとても気を遣ってくれ、階段を上がる時など、手を貸してくれたり、勉強の時にも手助けしてくれたり、約1ヶ月半くらいもの間、皆に助けられ勇気づけられました。
信頼・期待を伝える	昨年の私は、自学をあまりやってこないことがあり、担任の先生から、「あなたはやればできるって信じているから。」という言葉もらい、今、私は自学をがんばれていると思います。
	合唱祭の伴奏者の時、2曲弾くことになったとき、「君なら出来るよ。」という言葉に勇気づけられた。
味方になる	私が困っているときに、友達が「どうしたの。」と声を掛けてくれました。その時に、相談すると、「大丈夫だよ。一人じゃないから。心配なくて平気だよ。」と言ってくれたことです。
	中学1年生の時に、仲間はずれをされて、学校に行きたくなかつたけれど、先生や友達が気付いてくれて「お前は一人じゃない。なにがあっても守ってくれる人がいるから頑張れ。」と言われた時は泣きそうなくらい勇気づけられた。
失敗を責めない	失敗してから「もう二度とこんなことをしない。」と心に誓い頑張ってきた。そうしたら、先生に、「失敗していいんだよ、そこからどこまで頑張ろうとするかの気持ちだよ。」と言ってきて、人一倍頑張るようにしている。
	部活で、自分のミスで点を取られてしまったときに、友達に、「大丈夫。1点ぐらい取り返せる。」と言われて勇気づけられたこと。
自己開示	大会でよい結果が出なかつたときに、先輩から、「私もそんなことがあつたけど、練習すればよい結果が出るから頑張ろう。」とってもらいました。
連帯する	試合で負けてしまった時、「この経験をバネにして、また一緒に頑張ろう。」と言われた時、勇気づけられた。
	野球の試合の時、「お前は一人じゃないから、後ろには仲間がいるから、思い切ってやってこい。」と言われ、僕は、「確かにそうだな。」と思い、がんばれた。
緊張の緩和	ある先生に悩みを相談した時、「〇〇はいろいろと考えて頑張り過ぎちゃうから、無理したらダメだよ。頑張らなくていいんだよ。」と言われた。「頑張らなくていい。」という言葉が胸に響いてとても安心して、勇気づけられた。
	先生が「運動できる人も運動できない人も楽しんでやればいいじゃん。」などと言ってくれたので、校内陸上記録会頑張れました。

## 勇気づけのアンケートから(高等学校)

長所への注目	先生に「キレイ好きなんだね」とか「おまえは優しいな」とか自分を褒めてもらったこと。
	野球で先生に「球のスピード速いね」と言われたことがある。
	文化祭の時に歌を歌うことになって、すごく緊張して終わった後に泣いてしまって、その時にS先生が「お前、歌うまいんだから、自信持てよ」的なことを言われずごく勇気が出ました。
達成への注目	数学のテストが3年生になってやっと100点とれた。今まで凡ミスで点を逃がしていたから凡ミスをなくせたこと。物理基礎で理解力があるとほめられたこと。
	私が勇気づけられた経験は部活の大会で全国までいけたことです。試合は負けてしまい悔しい思いをしたけどそれから、色々得られた部分もあるので自分のためにもなったし、もっと頑張ろうと思いました。
モデルの存在	中学の頃部活の大会で負け続けてきましたが、最後の大会で優勝はできなかったけど3位になれた。なぜなれたのかは、チームの中で優勝した人がいたからもっとがんばろうと思えた。
	クラスみんなが毎日学校へ来て、行事にもしっかり参加していて、自分も少しでもがんばろうという気持ちになった。
継続的な肯定的関心	朝来たら、「おはよう」って言われた。
	親や友達などに「頑張れば、そのうちいい事ある」って言われて勇気づけられました。
異変の察知	自分が学校をやめそうになったとき友人が自分がやめるならオレもやめると言われたからやめないでがんばろうと言われたときとても勇気づけられた。
	元気がない時に友達が気付いてくれてはなしかけられた時に、自分のことを見てくれているんだと思い、えんりょがちに「だいじょうぶ」と言う「そうだんのかからね」といわれてとてもうれしくて、がんばろうと言う気持ちが出てきました。やっぱり友達は大切だなと思いました。
	友達じゃないけど、どうしたの？大丈夫？だけで勇気づけられた。その人のおかげで学校に来てます。
存在価値への注目	「お前はやさしいし、お前という最高に楽しい。」「お前はおれにとって最高で大切な友達だ」と言われたとき
	自分が「いてくれてよかった」と言われたとき。
	お前は、皆にみとめてもらってたから、もっとがんばれよ！
受容・共感	担任の先生やカウンセラーの先生に悩みを聴いてもらい励まされたり勇気づけられました。
	中学校で一番仲の良かった友達が、私が人がたくさんいるところが、苦手なことをわかってくれていて、いつも近くにいてくれた。「がんばれ。」って言ってくれて、心配してくれているのをわかってたから、頑張れた。
支援の表明	先輩に学校の事を相談したら熱心にきいてくれて的確なアドバイスをしてくれて学校が辛いのは誰だって一緒！辛い時はいつでも相談しろよって言われた時にいい先輩と仲良くしてよかったって思えた。
	卒業するまでずっと向き合ってくれたこと受験のこともちゃんと考えてくれた。
	悩んでいる時に友達が声をかけてくれて「どうしたの？大丈夫？ムリしないで！」この言葉うれしかった。
親身に関わる	「お前がおちこんでたら、おれまでかななくなるし、心配になってもしかたがない。そのお前の中にあるいやな気持ちはおれがなくてやる。だから心配すんな。」と言われたしゆんかんおれの中でなにかがかわった。
	中学1年生のころ不登校だった自分わざわざ家まできてはげましてくれたりした先生がいました。その先生のおかげで学校に行く勇気ができました。
	就職の事を決める時に自分のやりたいことがなかったので不安だったのですが先生がその職場のいい所を悪い所とていねいにおしえてくださったのでだいたい決めることができました。
信頼・期待を伝える	自分がクラスの相手、何人かの相談や話を聞いてあげたり、なやみ事とかを聞いたりしたら相手が少しでも笑顔になることが自分のうれしさと勇気づけられました。
	先生に「お前は、このクラスに必要な存在なんだよ。」と言われたこと。「お前はやればできる。」と言われたこと。「お前なら絶対に乗り越えられる。」と言われたこと。
	自分がとても不安だった時に、友達が君ならできるよ、とか応援をしてくれた時に、勇気づけられました。
味方になる	陸上の時キャプテンや2年生の陸上部に勇気づけられた。「がんばれ。」「おまえならできる。」「ファイト。」
	学校に行けなくて引きこもった時に誰も信用できなかった時、知り合いの人が「ゆらいでる気持ちでいたらダメだぞ。見方だから、がんばれ」って自分をはげましてくれた。
	中学校の時に、いじめられていて自分がなんなのか、必要な存在なのか、分からなくて、高校に入学しても不安や怖いと思っていた時に、高校に入ってからの友達皆に〇〇ちゃんは〇〇ちゃんだよ。いらなくなかない。なにかあったら支えるから何でも言ってって言ってもらえてうれしくて泣いてしまいました。